

奈良市埋蔵文化財調査概要報告書

平成16年度

2007

奈良市教育委員会

奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成16年度 正韻表

P. 42 遺構平面図中の遺構番号

謨	正
S D01	S D02
S D02	S D03
S A03	S A04
S A04	S A05
S A05	S A06
S B06	S B07
S E07	S E08
S E08	S E09
S E09	S E10
S E10	S E11
S E11	S E12
S K12	S K13
S K13	S K14
S K14	S K05
S K15	S K16
S X16	S X01

P. 43 写真キャプション

謨	正
溝 S D01	溝 S D02
溝 S D02	溝 S D03

奈良市埋蔵文化財調査概要報告書

平成16年度

2007

奈良市教育委員会



図版1 西塔基壇東階段 史跡大安寺旧境内第105次調査（本文33～34頁）

中央の基壇断ち割りのように見えるのが溝状土坑 SX09、階段延石前の土坑がSK05。

右上隅の石が心礎、石が多量に入る窪みが礎石抜取痕跡である。



図版2 基壇東辺版築状態

史跡大安寺旧境内第105次調査（本文33～34頁）

西塔基壇は丁寧な版築によって造られている。版築の構造は大きく3層に分けられ、上部は明黄色土と暗紫色砂質土の互層で比較的軟らかく、中部は黄色粘土と暗紫褐色土の互層で硬く締まる。両者の境には付近の地山土を用いた礎混じり粘土が挟まれる。下部は基底面下へ続く灰褐色～褐色シルトの互層で非常に硬い。

写真は中部付近で、黄色い帯状の層の厚さが1～2cm。



図版3 風鈴片

史跡大安寺旧境内第105次調査（本文33～34頁）

これまで西塔跡では2個体の風鈴が出土しているが、今回出土した風鈴片（縦15.1cm、横19.7cm、厚さ5～7mm）はそれらと異なるタイプである。直径は25cmをこえると推定され、これまでのものより倍近く大型である。また縁に沿って二重に弧が鋲出されており、おそらく全体的には梵鐘のような袈裟襷状の区画が造形されていたものと考えられる。



口絵4 魚尾 鰭部 西大寺旧境内第19次調査（本文6～8頁）



口絵5 魚尾 頭部 西大寺旧境内第19次調査（本文6～8頁）

西大寺の寺地から出土した瓦製鯉尾の鰭部（口絵4）と頭部（口絵5）である。鰭部は縦13.6cm、横19.2cm、厚さ5～6cmの断片で、頭部前面からみて左下隅部分に当たる。表裏面には鰱を表現した1cm弱の段差がある。頭部は縦25.6cm、横35.2cm、厚さ7～9cmの断片で、前面左半から側面にかかる部分に当たる。側面下部には横方向の突帯1本とその下に珠紋の痕跡が、側面前端部には縱方向の突帯2本が確認できる。両者は胎土や色調も似るが、同一個体であるか否かの特定はできなかった。鰭部は平安時代初頭の井戸SE501枠内から、頭部は室町時代の土坑SK613から出土した。



図6 漆紙文書 平城京跡第513次調査（本文9～10頁）

井戸SE507から出土した漆紙文書。「オモテ面」には、大衍暦による宝亀9（778）年5月29日～6月7日までの具注暦が記されている。大衍暦によるものとしては最古の例である。



図7 角柱 西隆寺跡第8次調査（本文44～45頁）

古墳時代のものと思われる掘立柱建物SB21の柱で、ヒノキ製である。従来、家形埴輪の角柱は円柱の簡略化表現とされてきたが、今回の調査で角柱の実在を確認することができた。当時の建物構造を考える上で重要な資料である。

は じ め に

奈良市は世界遺産「古都奈良の文化財」をはじめ、種々の文化財が数多くあり、日本の歴史を直に体感できるすばらしいところです。また、私たちの足下には、様々な情報を秘めた遺跡が今でも眠っています。こうした文化財は国民の財産であり、これらを研究し歴史を解明することは、我々の未来を築く際の教訓にもなるものです。

奈良市教育委員会で実施した発掘調査には、遺跡の保存整備のための調査と、開発に伴う事前調査があります。後者については、全国的に件数が減少している中、本市では引き続いて多数実施され、新たな知見が蓄積されております。これらの発掘調査成果を歴史研究に反映させると同時に、一般に広く公開し、市民の皆様に埋蔵文化財について、より深く知っていただけますよう、努めていきたいと考えております。

本書は、平成16年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果の概要をまとめたものです。奈良市域における埋蔵文化財の理解と、研究の一助としてご活用いただければ幸いです。

最後に、発掘調査にご理解とご協力をいただきました関係者や市民の方々、ならびに本書の作成にあたってご指導・ご協力をいただきました関係諸機関に厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

奈良市教育委員会
教育長 中尾 勝二

例　　言

1. 本書は、平成16年度に奈良市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 平成16年度～平成18年度の調査体制については下記のとおりである。なお、各調査の現場担当者は発掘調査一覧表および各調査概要の冒頭に示した。

平成16～17年度

社会教育部	文化財課	課長	福井進	主幹 谷村勝
		課長補佐	森下恵介	
埋蔵文化財調査センター		所長	高谷明男（～16年度）、川本恭久（17年度～）	
庶務係		係長	北尾秀一	事務史員 山形和宏
調査第一係		係長	立石堅志	
		技術史員	籐方正樹、秋山成人、安井宣也、松浦五輪美、宮崎正裕、久保清子、山前智敬、大庭淳司	
調査第二係		係長	三好美穂	
		技術史員	森下浩行、武田和哉、中島和彦、久保邦江、池田裕英、原田香織	
		再任用職員	森川倫秀	

平成18年度

社会教育部	文化財課	課長	池田みどり	課長補佐 森下恵介
埋蔵文化財調査センター		所長	川本恭久	
庶務係		係長	藤井雄二	事務史員 山形和宏
調査第一係		係長	森下浩行	
		技術史員	籐方正樹、秋山成人、松浦五輪美、宮崎正裕、久保清子、原田憲二郎、山前智敬、大庭淳司	
調査第二係		係長	三好美穂	
		技術史員	安井宣也、武田和哉、中島和彦、久保邦江、池田裕英、原田香織	

3. 発掘調査と本書の作成については、奈良文化財研究所、奈良県教育委員会、奈良市文化財保護審議会等関係諸機関からご指導とご教示を賜った。また、土地所有者等からの多大なご協力いただいた。記して感謝いたします。

4. 各発掘調査の次数は、奈良市教育委員会が実施した調査に付した遺跡ごとの通算次数である。

遺跡の略号は以下のとおりである。

II J - 平城京跡 D A - 大安寺旧境内 G G - 元興寺旧境内 S D - 西大寺旧境内
S R - 西隆寺跡 T I - 平城京東市跡推定地 N R - 奈良町遺跡 K N - コナベ古墳
H K - 東紀寺遺跡 F S - 古市遺跡 U A - 歌姫赤井谷横穴墓群 B T - 別所辻堂遺跡
B S - 別所ドノ前遺跡

5. 古墳時代以前の遺跡については、仮に大字名を付して遺跡名としたものもある。

6. 本書で使用した遺構等の番号は一部を除いて調査ごとに付した仮番号である。遺構等の番号の前には、その種類に応じて以下の記号を付した。

S A (塀・柱列) S B (掘立柱建物) S D (溝・濠・溝状遺構・暗渠) S E (井戸)

S F (道路) S K (土坑) S X (その他)

また、遺構の大きさの表記は、すべて遺構検出面での計測値である。

7. 本文中に引用した過去の調査の実施機関名については、調査次数の前に以下の略号を付した。

国 - 奈良 (国立) 文化財研究所、県 - 奈良県教育委員会、市 - 奈良市教育委員会

8. 本書で使用した遺物名称・形式・型式は、一部を除いて以下の刊行物に準拠した。

奈良時代 軒瓦:『平城京・藤原京出土軒瓦型式一覧』奈良市教育委員会 1996

土器:『平城宮発掘調査報告書 XI』奈良国立文化財研究所 1982

漆紙文書:『奈良文化財研究所史料第69冊 平城京漆紙文書一』奈良文化財研究所 2005

古墳時代 須恵器:田辺昭三「須恵器大成」角川書店 1981

埴輪:川西宏幸「円筒埴輪総論」「古墳時代政治史序説」培書房 1988

弥生時代 土器:寺澤 薫・森岡秀人編『弥生土器の様式と編年』近畿編 I 木耳社 1991

9. 発掘区位置図については、奈良市発行の1/2,500大和都市計画図を、調査位置図については、国土地理院発行の1/25,000地形図を使用した。

10. 本文中、図中に示した位置の表示は、法改正(2002年4月)前の平面直角座標系IVによる。

11. 本書の作成は、埋蔵文化財調査センター職員と文化財課記念物係職員が分担して行った。文責は、各調査担当者であるが、特に記載の必要がある場合は文末に記した。

12. 本書の編集は、三好美穂、原田香織が担当した。

本文目次

I 調査概要

1. 三条遺跡・平城京跡（左京四条五坊五・六坪）の調査 第512-1・2次	1
2. 西大寺旧境内の調査 第18・19次／平城京跡の調査 第513次	5
(1) 西大寺旧境内の調査 第18次	
(2) 西大寺旧境内の調査 第19次	
(3) 平城京跡（右京二条三坊一坪）の調査 第513次	
3. 平城京跡（右京八条四坊八坪）の調査 第514次	11
4. 油坂遺跡・平城京跡（左京三条東四坊大路）の調査 第515次	12
5. 平城京跡（左京一条三坊十五坪）の調査 第516次	14
6. 平城京跡（右京三条四坊九坪・二条大路）の調査 第517・524次	15
7. 平城京跡（左京六条一坊十三坪）の調査 第518次	19
8. 平城京跡（左京六条二坊四坪）の調査 第519次	21
9. 法華寺垣内古墳・平城京跡（左京一条三坊四・五坪）の調査 第520次	22
10. 平城京跡（右京一条二坊三坪）の調査 第521次	25
11. 平城京跡（左京四条三坊十五坪）の調査 第522次	26
12. 平城京跡（左京六条東一坊大路）の調査 第523次	27
13. 平城京跡（左京五条五坊十坪）の調査 第525次	28
14. 平城京跡（左京六条三坊十二坪）の調査 第526次	29
15. 平城京跡（右京七条西二坊大路）の調査 第527次	30
16. 平城京跡（左京三条四坊四坪）の調査 第528次	31
17. 史跡大安寺旧境内（西塔跡）の調査 第105次	33
18. 史跡大安寺旧境内（西面・南面築地塀推定地）の調査 第106次	35
19. 史跡大安寺旧境内（曉院推定地）の調査 第107次	37
20. 史跡大安寺旧境内（花園院推定地）の調査 第108次	38
21. 史跡大安寺旧境内（食堂并大衆院推定地）の調査 第109次	39
22. 元興寺旧境内（金堂推定地）の調査 第59次	40
23. 元興寺旧境内（南面築地塀推定地）の調査 第60次	41
24. 西大寺旧境内（弥勒金堂院推定地）の調査 第17次	42
25. 西大寺東遺跡・西隆寺跡の調査 第8次	44
26. コナベ古墳の調査 第5次	46
27. 東紀寺遺跡の調査 第7次	47
28. 東紀寺遺跡の調査 第8次	48
29. 古市遺跡の調査 第7次	49

II 自然化学分析

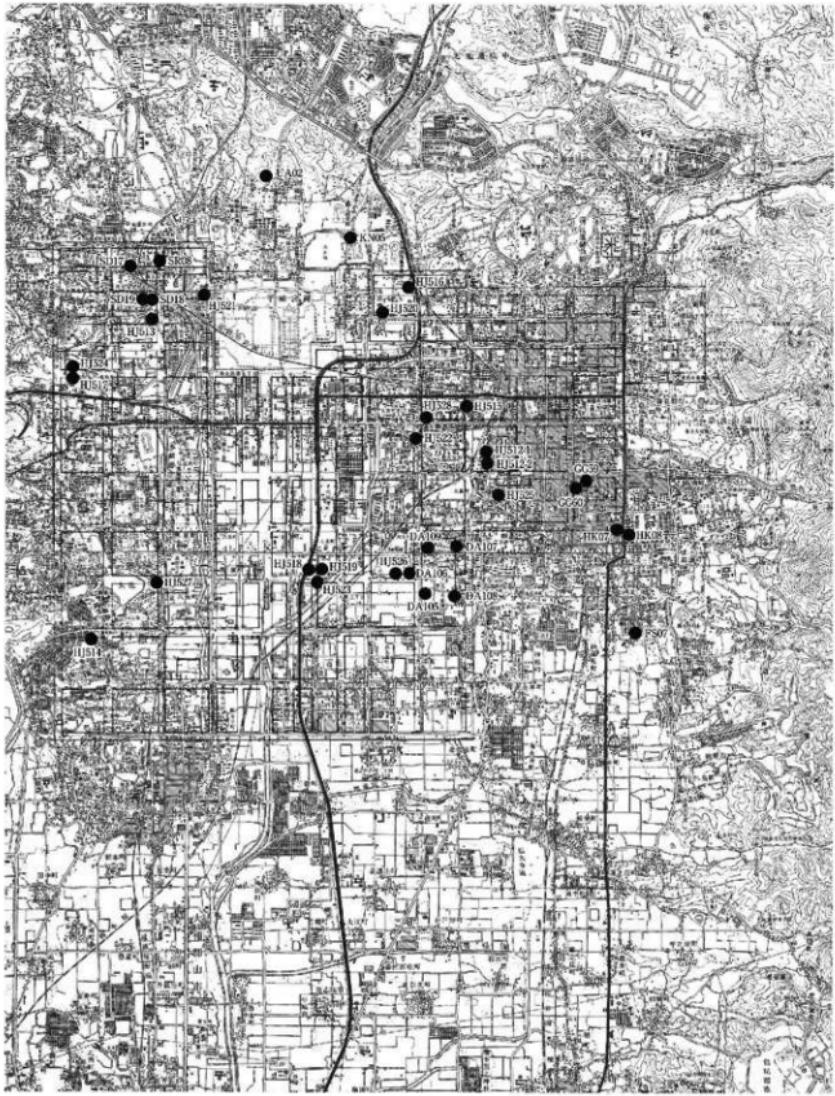
1. 法華寺垣内古墳（平城京跡第520次調査）における自然化学分析	53
2. 東紀寺遺跡第6次調査における河川01出土木製品の樹種同定	60
3. 東紀寺遺跡第6次調査出土の須恵器窓内容物に関する分析調査	64

平成16年度 埋蔵文化財発掘調査一覧

番号	調査会員	調査場所	調査期間	実施者	担当者	事業者	事業名	事業区分	届出者
1 H-5124	平城京左京西条五路六村／三条路	丘北町334-2地	2004.03.06 ~ 2004.06.25	2040 sf	実井	豊島市長	JH 幸賀御用宿泊地土塙河内監視 近畿奉公	公共	S633053
2 H-5124	平城京左京西条五路五村／六村／三条路	三条町327-1地	2004.03.07 ~ 2004.06.31	1056 sf	安井	企美市長	JH 幸賀御用宿泊地土塙河内監視 近畿奉公	公共	S633053
3 H-5125	平城京右京・三条町一村	西大寺町654番地他	2004.03.11 ~ 2004.06.29	4368 sf	吉澤・山田	企美市長	西大寺研究地区上地区古跡整理 万葉文書記載跡事業	公共	S633056
4 H-5124	平城京右京・三条町一村	七条西町一丁目1057の南	2004.03.06 ~ 2004.05.28	2000 sf	伏山	伏山バス	七地底城	近畿	B153304
5 H-5125	平城京御用宿泊地・油松屋 日	人前町二丁目184-3地	2004.07.20 ~ 2004.09.07	2398 sf	沈山	幸島市長	近江人呂敷地跡整備活動事業	公共	R163091
6 H-5126	平城京左京・三条二丁目一村	法事町414番地	2004.07.12 ~ 2004.07.13	370 sf	三村	(有)コカセイ	グレーブルーム藝術	近畿	B163018
7 H-5127	平城京右京・三条町九村	佐原町533 2地	2004.07.26 ~ 2004.11.28	11060 sf	久保田・山東	豊島市長	大和小舟通把防整備御叶女好文 事事業(竹林工区)	公共	H163088
8 H-5128	平城京右京・三条町十三村	八条町414-1地	2004.08.23 ~ 2004.10.28	900 sf	武岡	企美トヨタ自動車㈱	店舗新築	近畿	H163007
9 H-5129	平城京右京・三条二丁目118-1の一部	2004.08.26 ~ 2004.08.28	995 sf	(社)・官房	(有)シビゴーバ レーション	屯地造成	近畿	H163100	
10 H-5200	平城京右京・三条一村・左 ・法事町四丁目内	法事町1241-1地	2004.09.21 ~ 2004.12.09	5330 sf	田口新・武田 ・久保田	新井建設㈱	屯地造成	近畿	H163048
11 H-5202	平城京右京・三条二丁目二村	二条町二丁目60-1	2004.10.15 ~ 2004.11.01	1200 sf	久保田	個人	店舗付マシンション	近畿	H163170
12 H-5222	平城京右京・三条二丁目二村	赤坂町202-4地	2004.11.22 ~ 2004.12.07	1100 sf	久保田	個人	真岡化け野薙	近畿	H163144
13 H-5223	平城京右京・三条二丁目二村・八条町414-1地	2004.12.20 ~ 2004.12.21	718 sf	二村	(有)ウエムラ	屯地造成	近畿	H163200	
14 H-5224	平城京右京・三条西町九村 ・三条二丁目	佐原町539-2地	2005.01.06 ~ 2005.03.11	4580 sf	久保田・山東	幸島市長	大和小舟通把防整備御叶女好文 事事業(竹林工区)	公共	H163088
15 H-5225	平城京右京・三条西町五村	佐原町436番地の1	2005.01.26 ~ 2005.03.02	2000 sf	雄方	幸島市長	屯地造成整備事業	公共	H163027
16 H-5226	平城京右京・三条十五村 ・大安寺一丁目45番	2005.02.07 ~ 2005.02.13	80 sf	宮町	西川ワーストホール	屯地造成	近畿	H163286	
17 H-5227	平城京右京・三条一村	六条一丁目450-10-1地	2005.02.14 ~ 2005.02.23	200 sf	秋山	幸島市長	道井新築工事(ノウルネル)	公共	H163265
18 H-5228	平城京右京・三条各跡探査	人河町二丁目192番地	2005.02.14 ~ 2005.03.31	2738 sf	久保田・武田	新井建設㈱	新築	近畿	H163277
19 DA-105	免許火安寺山地内(西面)	東九条町1340地	2004.06.28 ~ 2004.12.28	5000 sf	松浦	豊島市長	免許火安寺山地内化粧事業	公共	H161003
20 DA-106	免許火安寺山地内	人安寺町1320地	2004.06.28 ~ 2004.07.30	1020 sf	松浦	企美市教育委員会 教務長	道井新築報道	緊急	H161083
21 DA-107	免許火安寺山地内	大安寺町二丁目987番地	2004.07.01 ~ 2004.07.08	150 sf	久保田	個人住宅新築	新築	H161081	
22 DA-108	免許火安寺山地内	東九条町1381	2005.02.03 ~ 2005.02.15	210 sf	松浦	個人	真岡化け野薙建設	新築	H161049
23 DA-109	免許火安寺山地内	大安寺町二丁目1035番	2005.02.14 ~ 2005.02.22	170 sf	安井	個人	個人住宅新築	新築	H161005
24 GG-66	足利寺旧境内	足利町23-2地	2004.06.01 ~ 2004.06.08	111 sf	地場物	個人	個人住宅新築	新築	H163000
25 GG-60	元寺子町山地内	馬場町11-5	2003.01.04 ~ 2005.01.14	180 sf	久保田	個人	個人住宅新築	新築	H163241
26 S-D17	西大寺山地内	西人寺町一丁目370-6地	2004.01.19 ~ 2004.05.29	2520 sf	久保田	個人	マシンジョン新築	近畿	H163307
27 S-D18	西人寺山地内	西人寺町2419番地地	2004.04.24 ~ 2004.07.22	4900 sf	夏井・山東	幸島市長	西大寺御用宿泊地土塙河内監視 山地新築整備事業	公共	S633036
28 S-D19	西人寺山地内	西人寺町2430-1番地地	2004.09.21 ~ 2005.01.20	18000 sf	夏井	幸島市長	西大寺御用宿泊地土塙河内監視 新築	公共	S433034
29 S-R8	西造寺跡・西大寺山地内	西人寺町一丁目70-4地	2003.01.27 ~ 2005.02.28	1875 sf	大庭	企美市長	西人寺山地新築整備事業	公共	H163303
30 K-N5	リナベ古墳	法事町1305-1地	2004.11.24 ~ 2004.12.22	3130 sf	伏山	企美市長	市淀北部第29号古跡改良工事	公共	H163055
31 H-K7	紀伊今治跡	紀伊町556-1地	2004.08.23 ~ 2004.10.07	3660 sf	久保田	社会福祉法人 サンライズ	特別養護老人ホーム新築	近畿	B163336
32 H-K8	紀伊今治跡	紀伊町一丁目703-5	2003.03.07 ~ 2005.03.25	2550 sf	田口新	田口法人施設団体会 西側合併企美立山地区	施設開業告白看板	近畿	H163353
33 F-S7	吉田山跡	吉田町1199-1	2004.08.10 ~ 2004.09.02	2140 sf	田口新	田口法人施設団体会 西側合併企美立山地区	施設開業告白看板	近畿	H163049
34 L-A2	歌麿寺跡母穴	歌麿町268-2	2003.02.01 ~ 2005.03.03	250 sf	田口新	企美市教育委員会 教務長	道井新築報道	新築	
35 B-T3	御所山古跡	御所町292地	2004.10.31 ~ 2004.10.30	21000 sf	柳谷・大津	企美市長	御所山古跡整備事業	近畿	
36 B-S3	御所ノ山古跡	御所町160地	2004.11.12 ~ 2005.01.07	10900 sf	柳谷・大津	企美市長	御所山古跡整備事業 (御所山古跡)	近畿	
37 式第04-15	水戸内市内古跡敷地	水戸内町182地	2004.09.21 ~ 2004.11.05	7660 sf	柳谷・大津	企美市長	道井新築報道	新築	H163353

*34について: ■は「埋蔵文化財調査報告」平成17年度一ににて報告。

35 - 37について: ■は「埋蔵文化財調査報告書」における埋蔵文化財発掘調査報告書告白・別所アノ便・注記・人名表記表・本因表記一・芸良市芸良芸良会・2097にて報告。



平成 16 年度 発掘調査位置図 A 1/50,000

平成16年度 埋蔵文化財発掘調査一覧

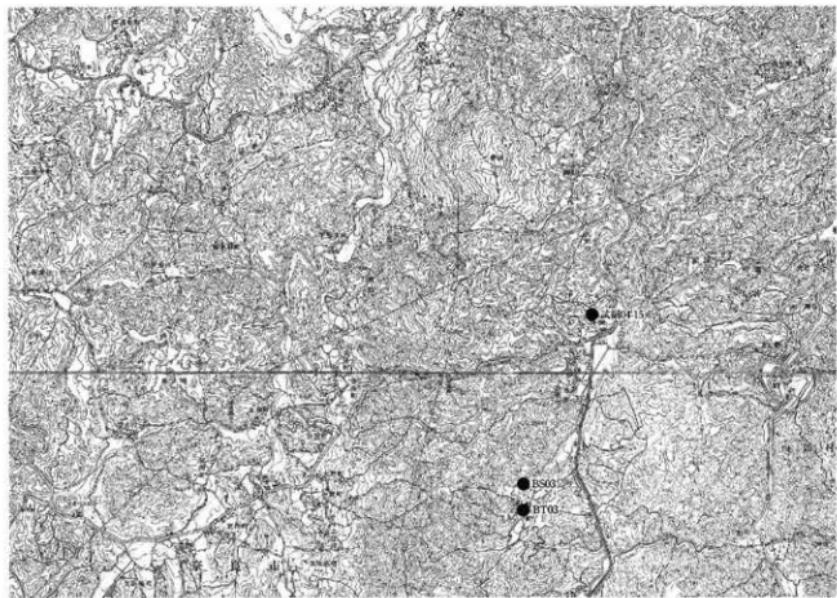
番号	調査次数	調査名	調査地	調査期間	調査面積	担当者	事業者名	事業区分	届出者名	
1	HJ5121	平成16年度京都市西院西六坪・ 「金屋跡」	二条市本町334-2敷	2004.05.06 ~ 2004.06.23	304.0 m ²	安井	京都市長	JTR 京都市西院地区土地区画整理事業 西院事業	公共	5633055
2	HJ5122	平成16年度京都市西院五・六 坪・「金屋跡」	三条東町327-1敷	2004.05.07 ~ 2004.06.31	1,026.0 m ²	安井	京都市長	JTR 京都市西院地区土地区画整理事業 西院事業	公共	5633055
3	HJ513	平成16年度京都市西院一坪	西院市南693番地他	2004.05.11 ~ 2004.06.29	136.0 m ²	高畠・山岸	京都市長	京都市西院地区土地区画整理事業 西院事業	公共	5633056
4	HJ514	平成16年度京都市西院八坪	七条西町・J-141057の一部	2004.05.06 ~ 2004.05.28	206.0 m ²	秋山	梅川一・ス	七条虎成	個人	51153304
5	HJ515	平成16年度京都市西院大坪・ 「法華寺跡」	大河内二丁目124-3地	2004.07.20 ~ 2004.09.07	238.0 m ²	秋山	京都市長	芝光大谷御所跡整備計画事業	公共	51153091
6	HJ516	平成16年度京都市西院一坪	法華寺町141番地	2004.07.12 ~ 2004.07.13	37.0 m ²	二野	(有)コカセイ	グリーンホール事業	個人者	51163018
7	HJ517	平成16年度京都市西院九坪	有賀町639-2地	2004.07.26 ~ 2004.12.28	1,060.0 m ²	久保原・山岸	京都市長	大和町舟町御殿跡整備計画事業 事業(貯蔵・展示)	公共	51163068
8	HJ518	平成16年度京都市西院一 「法華寺跡」	八条五丁目412-1地	2004.08.23 ~ 2004.10.28	960.0 m ²	武田	京良トヨタ自動車㈱	店舗新築	個人者	51163007
9	HJ519	平成16年度京都市西院四坪	八条五丁目418-1の一部	2004.08.26 ~ 2004.08.28	58.0 m ²	二野・宮崎	(有)シーバック・ザ・シーケン	七条虎成	個人者	51163169
10	HJ520	平成16年度京都市西院一 「法華寺跡」	法華寺町1241-1地	2004.09.21 ~ 2004.12.09	335.0 m ²	周防原・北川・ 久保原	京光虎成	七条虎成	個人者	51163048
11	HJ521	平成16年度京都市西院三坪	二条町二丁目60-1	2004.10.15 ~ 2004.11.01	120.0 m ²	久保原	個人	店舗外マシンション	個人者	51163170
12	HJ522	平成16年度京都市西院二 「法華寺跡」	二条通西町203-4地	2004.11.22 ~ 2004.12.07	120.0 m ²	久保原	個人	片桐作庭園	個人者	5115144
13	HJ523	平成16年度京都市西院一 「法華寺跡」	八条五丁目437-12地	2004.12.20 ~ 2004.12.21	71.0 m ²	一好	(有)ウニムク	花園虎成	個人者	51163200
14	HJ524	平成16年度京都市西院九 「法華寺跡」	御陵町539-2地	2005.01.05 ~ 2005.03.11	458.0 m ²	久保原・山岸	京都市西院	大和町虎成街整備計画交付金事 業(貯蔵・展示)	公共	51163058
15	HJ525	平成16年度京都市西院十 「法華寺跡」	西院町33番地の1	2005.01.26 ~ 2005.03.02	209.0 m ²	橋方	京良トヨタ自動車	京都市西院	公共	51163027
16	HJ526	平成16年度京都市西院十二 「法華寺跡」	大和町二丁目45番	2005.02.07 ~ 2005.02.15	80.0 m ²	河津	河津マーストーム	花園虎成	短假借	51163286
17	HJ527	平成16年度二坪地	六条一丁目432-10-1地	2005.02.14 ~ 2005.02.23	20.0 m ²	秋山	京良トヨタ	西院跡工事所ノ東六本松	公共	51163363
18	HJ528	平成16年度二 「各御跡御跡」	大和町二丁目192番地	2005.02.14 ~ 2005.03.31	273.0 m ²	久保原・武田	西院跡前シティマジン ション事業所新築	店舗新築	個人者	51163277
19	DA105	史跡大安寺跡境内(西院)	東久余町1340地	2004.06.28 ~ 2004.12.24	506.0 m ²	近藤	京良トヨタ自動車	史跡大安寺跡境内保護修復事業	公共	51101003
20	DA106	史跡大安寺跡境内	大安寺町1320地	2004.06.28 ~ 2004.07.30	102.0 m ²	地図町	京良トヨタ自動車	道跡跡跡整備	個人	51161083
21	DA107	史跡大安寺跡境内	大安寺町5-10-7号	2004.07.01 ~ 2004.07.08	15.0 m ²	久保原	個人	個人住宅新築	居住	51161091
22	DA108	史跡大安寺跡境内	東久余町1381	2005.02.03 ~ 2005.02.15	21.0 m ²	近藤	個人	高瀬谷合遺跡	居住	51161045
23	DA109	史跡大安寺跡境内	大安寺町5-10-5号	2005.02.14 ~ 2005.02.22	17.0 m ²	久保原	個人	個人住宅新築	居住	51161095
24	GG59	瓦葺寺跡小僧院	瓦葺寺町2-2地	2004.06.01 ~ 2004.06.08	11.1 m ²	施田勝	個人	個人住宅新築	居住	51163020
25	GG60	瓦葺寺跡小僧院	瓦葺寺町1-1	2005.01.01 ~ 2005.01.14	18.0 m ²	久保原	個人	個人住宅新築	居住	51163241
26	SD117	西大寺跡境内	西大寺町一丁目370-6地	2004.04.19 ~ 2004.05.29	252.0 m ²	久保原	個人	マジンショナ新築	個人者	51153397
27	SD118	西大寺跡境内	西大寺町2419番地他	2004.05.24 ~ 2004.07.22	490.0 m ²	宮町・山岸	京良トヨタ自動車	西大寺跡境内土地区画整理事業 万葉古跡修復事業	公共	56330566
28	SD119	西大寺跡内	西大寺町2430-1番地他	2004.09.21 ~ 2005.01.20	180.0 m ²	宮町	京良トヨタ	西大寺跡境内土地区画整理事業 万葉古跡修復事業	公共	56330606
29	SR8	西院跡・西大寺跡	西大寺町一丁目70-4地	2005.01.27 ~ 2005.02.28	187.0 m ²	大庭	京良トヨタ	西大寺跡公園修復事業	公共	51163123
30	KH5	サバ内塗	法華寺町1805-1地	2004.11.24 ~ 2004.12.22	313.0 m ²	桃山	京良トヨタ	市道北尾町529号線沿い工事 手	公共	51163053
31	HK7	寛弘寺跡	紀吟寺町256-1地	2004.03.23 ~ 2004.04.07	360.0 m ²	久保原	社会福祉法人 サンライズ	疗養施設老人ホーム新築	個人者	51153336
32	HK8	寛弘寺跡	寛弘寺町一丁目703-5	2005.03.07 ~ 2005.03.25	255.0 m ²	施田勝	社会法人高瀬谷合遺跡 典藏会所土地区画整理事業	典藏会所土地区画整理事業	個人者	51163253
33	F S7	西市跡	西市町199-3	2004.03.10 ~ 2004.05.02	216.0 m ²	施田勝	個人	川西モビリ	居住	51163049
34	H A2	敷神寺跡	敷神町906-2	2005.02.01 ~ 2005.03.03	24.0 m ²	施田勝	京良市教育委員会 市教育長	施設面積縮減	居住	
35	H T3	御所ノ堀跡	御所町202番	2004.05.11 ~ 2004.05.20	240.0 m ²	梅川一・大庭	京良市教委	京良市教委	居住	
36	B S3	御所ノ堀跡	御所町680地	2005.01.12 ~ 2005.01.07	109.0 m ²	梅川一・大庭	京良市教委	京良市教委	居住	51133193
37	武B4-15	水町内宿場跡	水町町1102地	2004.09.21 ~ 2004.11.05	76.0 m ²	梅川一・大庭	京良市教委	京良市教委	居住	

※34については、「埋蔵文化財事業報告書 平成17年度」にて報告。

35 - 37について、(西大寺跡修復事業)は京良市西院地区における埋蔵文化財修復事業報告書 平成17年度・第1回・第2回・第3回・第4回報告書に記載。



奈良市域と位置図 A・Bとの関係 1/200,000



平成 16 年度 発掘調査位置図 B 1/50,000

1. 三条遺跡・平城京跡（左京四条五坊五・六坪）の調査 第512-1・2次

調査次数	H J 第512-1・2次	調査期間	1次 平成16年5月6日～6月25日 2次 平成16年5月7日～8月31日
工事内容	J R 奈良駅周辺地区土地区画整理通常事業	調査面積	1次 304m ² 2次 1,026m ²
通知者名	奈良市長	調査担当者	安井宣也
調査地	奈良市三条本町 1次 334-2他 2次 327-1他		



H J 第512-1次調査地は平城京の条坊復原では左京四条五坊六坪の西辺中央部にあたり、北で市H J第477-1次、東で市H J第477-4次（いずれも平成14年度）、南西で市H J第452-2次（平成12年度）の各調査地と隣接する。また、H J第512-2次調査地は同五坪の北辺西寄り、六坪南辺西寄り及び五・六坪坪境小路にあたり、北で市H J第477-3次（平成14年度）、南で市H J第268-2・3次（平成4年度）、東で市H J第462-4次（平成13年度）の各調査地と隣接する。

奈良時代の五・六坪内の様相については、今までの調査成果から、①宅地に関連する遺構が希薄である、②六坪内では坪の西辺を画する東五坊坊間西小路の東側溝の推定位置に幅10m程度の奈良時代前期に掘削された溝（SD02）がみられ、七坪以北に続く、③坪内に河川が流れている、といった点が明らかになっている。

また、五・六坪内の調査地では弥生時代後期末に埋没する河川が検出されており、埋土中から土器や木製品が出土したことから、付近に当時の集落が存在することが推察されている。加えて、特に六坪内の調査地では江戸時代の耕作溝が広くみられ、方位の異なるものが重複することから、当時は広く耕地となっており、少なくとも一度は地割が変更されたことがわかっている。

今回の調査は、平城京の条坊道路や坪内の様相の把握を主な目的として実施した。また、その前後の時代における土地利用の様相の確認にも留意した。なお、遺構番

号は坪ごとの通し番号である。

H J 第512-1次調査

基本層序 基本的には造成土（厚さ0.7m）の下に水田耕土の黒色砂質シルト層（厚さ0.2m）、水田床土の灰色砂質シルト層（厚さ0.1m）があり、その下で黄灰色砂質シルト層の地山上面（標高65.3m）となる。ただし北辺部では、北に隣接する市H J第477-1次調査地の南西部と同様で、奈良時代の土器片を含む灰色シルト・砂層（厚さ0.3m）、弥生時代後期末の土器片を含む黒褐色砂質シルト層（厚さ0.2m）があり、その下で後述する河川06の堆積層となる。黒褐色砂質シルト層は湿地の様相を示す層で、上面では人やウシの足跡らしい凹凸が認められた。

検出遺構 遺構検出は地山上面で行った。主な検出遺構は古墳時代中期後半の土坑2基（SK26・27）で、他に江戸時代の土坑・粘土採掘坑・素掘り溝がある。

SK26・27はともに径3mの平面円形で、深さが0.5m程度の土坑で、埋土は黒色砂混じりシルトである。SK26の埋土中から古墳時代中期後半の須恵器蓋杯片が出土した。SK27は出土遺物がないが、SK26とは形状と埋土が同様であることから同時期のものと考える。

また、発掘区の北寄りで弥生時代後期末に埋没した旧河川（河川06）を、南東拡張部で奈良時代に形成され平安時代に埋没した旧河川（河川05）を検出した。

河川06は、東に隣接する市H J第477-4・5次調査地（平成14年度）から続いており、東から西に流れる。南岸は発掘区北辺部で、北岸は市H J第477-1次調査地の南辺部とみられるが、かなり不明瞭である。埋土は、発掘区北壁沿いを約0.5m掘下げた箇所で、上から灰色砂質シルト層・灰色砂礫層となることを確認した。なお、発掘区北東隅では埋没後に形成された小流路を検出した。この小流路は市H J第477-4・5次調査地から続き、市H J第477-1次調査地の南西隅でも認められる。深さは0.2mで、流路内に黒褐色砂質シルトが堆積する。底部付近で多量の弥生時代後期末の土器が出土した。

河川05は、東に隣接する市H J第477-3・4次調査



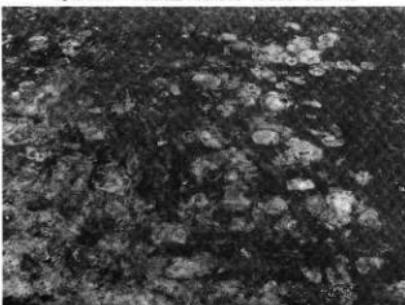
HJ 第512 - 1次調査 発掘区全景（南西から）



HJ 第512 - 1次調査 河川 06 小流路（北から）



HJ 第512 - 1次調査 発掘区北壁断面（南西から）



HJ 第512 - 1次調査 足跡の痕跡（北から）



地（平成14年度）と、西に隣接する市HJ第452-2次調査地（平成12年度）で確認されている。今回の調査では発掘区の南東拡張部で北岸を検出し、調査地の南辺付近を東から西に流れることがわかった。

出土遺物 土器類が遺物整理箱10箱分出土した。主なものに河川06の小流路から出土した後期末の「大和第VI様式」に属する弥生土器がある。器種は甕、壺、鉢、高杯で、集落遺跡と同様である。

調査所見 六坪北西辺については、発掘区内で奈良時代の宅地に隣接する遺構がみられなかつたことから、周辺と同様に空閑地であったと考える。

発掘区北辺において河川06の埋没後に形成された小流路内で多量の弥生時代後期末の土器が出土したことについては、北に隣接する市HJ第477-1次調査地で同時期の上坑や溝等の遺構を確認したことや、出土した土器の器種が集落遺跡と同様であることから、調査地が当時の集落の一画であったことを反映するものと考えられる。また、古墳時代中期後半の土坑SK26・27についても、調査地が当時の集落の一画であったことを反映するものと考えられる。

なお、湿地の様相を示す黒褐色砂質シルト層の上面で人やウシの足跡らしい凹凸がみられることについては、直上に奈良時代の土器片を含む灰色シルト・砂層が堆積することを考慮すれば、古墳時代後期以前に畜力を用いた水田耕作が営まれたことを反映する可能性がある。

H J 第512-2次調査

東西2箇所の発掘区を設定して実施した。

基本履歴 東発掘区では、造成土（厚さ0.7m）、水田耕土の黒色砂質シルト層（厚さ0.2m）、水田底土の灰色砂質シルト層（厚さ0.1m）の下で地山の灰色シルト・粘土層上面（標高65.2-65.3m）となるが、北辺では後述する河川10の堆積層となる。西発掘区では、造成土（厚さ1.2m）、水田耕土の黒色砂質シルト層（厚さ0.2-0.3m）、水田底土の灰色砂質シルト層（厚さ0.3-0.4m）の下で地山の黄褐色粘土層上面（標高64.6-64.9m）となる。地山上面は東から西へ緩やかに下る。

検出遺構 東・西2つの発掘区とも地山上面で遺構検出を行った。

東発掘区の主な検出遺構は、鎌倉-江戸時代の粘土探査坑群、江戸時代の耕作溝で、奈良時代の平城京に隣接する遺構はなかった。江戸時代の耕作溝は、方眼方位に沿うものと方眼方位西に対しやや北に振れる方向及びその直交方向のものがある。西発掘区の主な検出遺構は、南に隣接する市HJ第268-3次調査地（平成4年度）

から続く鎌倉時代以降の耕作溝である。

また、東発掘区では弥生時代後期末に埋没する旧河川（河川10）と奈良時代に形成され平安時代に埋没する旧河川（河川05）を検出した。

河川10は、東発掘区の北辺を東から西に流れる。北に隣接する市HJ第477-3次調査地に及ばないところから、川幅は20m程度と推測する。深さは約2mである。埋土は主に州を形成した灰色の砂疊層である。最上位には灰色の砂質シルト層が堆積しており、弥生時代後期末の土器が出土した。なお、河川の南岸沿いと中央部には埋没後に形成された小流路がある。前者は腐植を含む褐灰色粘土で埋まっており、弥生時代後期末の上器が出土した。また、後者は流木を含む砂疊で埋まっており、古墳時代中期後半の上器が出土した。

河川05は北に隣接する市HJ第477-3次調査地と南京に隣接する五坪内の市HJ第462-4次調査地（河川08）で確認されている。今回の調査では東発掘区の東辺で西岸を検出し、調査地の東辺付近を北から南に流れることがわかった。

出土遺物 上器類が遺物整理箱16箱分出土した。主なものは河川10と小流路から出土した後期末の「大和第VI様式」に属する弥生土器がある。器種には甕、壺、鉢、高杯があり、集落遺跡と同様である。古墳時代中期後半の小流路から出土した土器には、土師器の小型丸底壺と田辺編年T K208あるいはT K234型式の須恵器の杯身がある。なお、東発掘区の江戸時代の耕作溝からは土師器や陶磁器の破片が出土している。

調査所見 五坪北辺と六坪南辺は、奈良時代には空閑地であったと考える。五・六坪坪境小路に隣接する遺構はなかったが、後世の開発で削平された可能性があり、施工については周辺の調査成果も踏まえて検討する必要がある。

河川10と小流路から弥生時代後期末の土器や古墳時代中期後半の土器が出土したことについては、付近にこの時期の集落があったことを反映するものと考えられる。河川の埋没時の堆積層や埋没後に形成された小流路から弥生時代後期末の土器が出土する状況は前述したHJ512-1次調査地で確認した河川06でも認められる。調査地一帯における弥生時代後期末の集落の成立が河川の埋没と関連することがうかがえ、河川の埋没後に形成された湿地を水田に開発した可能性がある。

江戸時代の耕作溝のうち、方眼方位西に対しやや北に振れる方向及びその直交方向のものは岡で示す明治時代初期の畦畔の方向と合致する。したがって当初の耕地の地割は方眼方位に沿っていたと考える。



HJ 第512 - 2次調査 東発掘区北半部（西から）



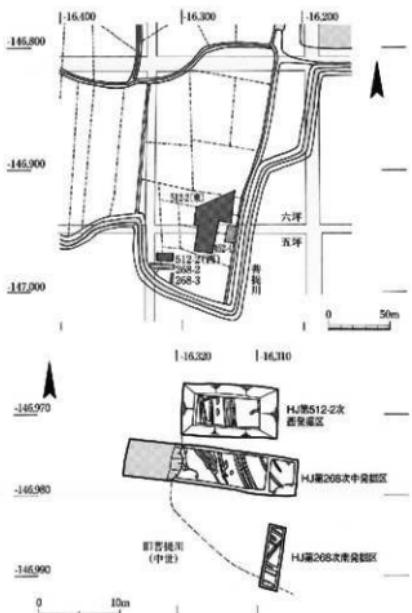
河川 06 弥生土器出土状態（東から）



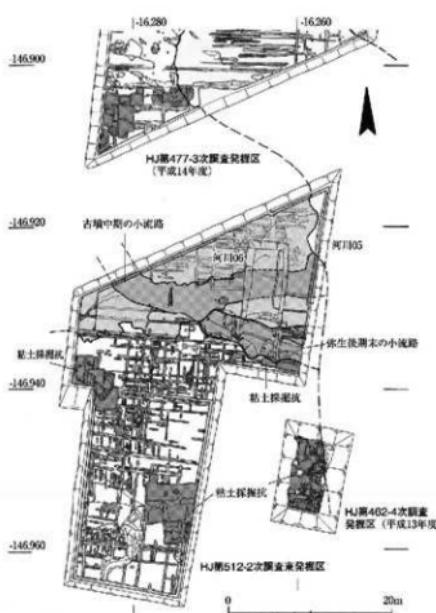
HJ 第512 - 2次調査 東発掘区南半部（北から）



HJ 第512 - 2次調査 西発掘区南全景（南東から）



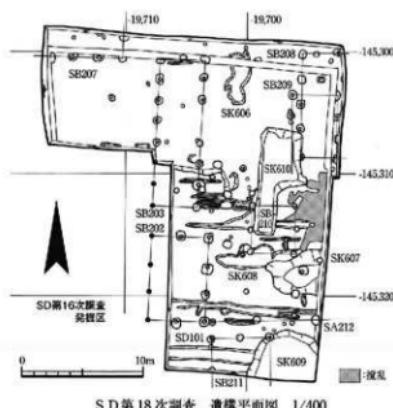
(左上) 明治時代の水田地割り（地籍図による） 1/4,000、(左下) HJ 第512 - 2次調査西発掘区、(右) 同東発掘区平面図 1/600



2. 西大寺旧境内の調査 第18・19次／平城京跡の調査 第513次

近鉄西大寺駅南地区土地区画整理事業に係る発掘調査一覧表

遺跡名	調査次数	事業名	通知者	調査地	調査期間	調査面積	調査担当者
平城京右京三条三坊一坪	HJ 513	地方特定道路整備事業	奈良市長	西大寺南町694他	H16. 5.11 ~ 6.29	430m ²	山前智敬
西大寺旧境内（右京一条三坊三坪）	SD 18			西大寺南町2419他	H16. 5.24 ~ 7.22	490m ²	宮崎正裕
西大寺旧境内（右京一条三坊三坪）	SD 19	通常事業	奈良市長	西大寺南町2430-1他	H16. 9.21 ~ 17.120	1,000m ²	宮崎正裕



本調査は、奈良市が進める近鉄西大寺駅南地区土地区画整理事業（総面積約30万m²）に係り実施した埋蔵文化財発掘調査である。奈良市教育委員会では、昭和63年度から事業地内の発掘調査を継続して実施している。平成16年度は上表のとおり3箇所で1,920m²の調査を実施した。初年度からの総調査面積は106,579m²になる。

なお、各調査で付した遺構番号は、平城京の一坪ごとの通し番号とし、奈良時代以降は3桁で明示する。

(1) SD第18次調査

調査地は西大寺現境内の東側で、平城京右京一条三坊三坪に相当し、奈良時代の西大寺の寺地に当たる。三坪内ではこれまでに3件（国第112-1次調査：昭和53年度、市SD第16-1・2次調査：平成15年度）の調査が行われている。

基本層序 現況は駐車場で、盛土上に耕土、床土、遺物包含層が堆積し、現地表下約0.5mで黄灰色砂質土あるいは淡黄灰色粘細砂の地山に達する。地山の標高は概ね71.7mで、遺構はすべて地山面で検出した。

検出遺構 奈良～江戸時代までの遺構がある。主な遺構には、奈良・平安時代の掘立柱建物7棟（S B202・203, 207～211）、掘立柱塀1条（S A212）、土坑4基（SK 606～609）、室町時代の土坑1基（SK 610）、江戸時代の溝1条（SD 101）がある。

出土遺物 遺物整理箱で7箱分あり、土器が3箱分を占める。大半が奈良・平安時代の土師器、須恵器、黒色



土器A類で、少量ながら瓦器もある。瓦の数量は丸瓦が114点(6,486g)、平瓦が243点(22,682g)、丸瓦か平瓦いずれか不明が96点(1,121g)である。軒丸瓦は2点、軒平瓦は1点あり、すべて平安時代以降のものである。

調査所見 S B203は西側柱をS B202のそれと、北妻柱はS B207の南側柱と柱筋を揃え、この3棟は併存すると考える。周辺の調査成果から、S B202・203の西側は東側に比べて遺構密度が小さく、三坪の南北中央のこの一角は空開地の時期が認められる。(宮崎正裕)

(2) SD第19次調査

調査地はSD第18次調査地のすぐ西側で、平城京右京一条三坊三坪の西半に相当し、調査地西端には三坪と六坪間の坊間東小路が想定される。

基本層序 現況は駐車場で、盛土下に耕上、床上、遺物包含層が堆積し、現地表下約0.8mで黄灰色砂質土あるいは淡黃灰色粘組砂の地山に達する。地山の標高は概ね71.8mで、遺構はすべて地山面で検出した。

検出遺構 奈良～江戸時代の遺構がある。主な遺構には、奈良・平安時代の掘立柱建物3棟(S B213～215)と掘立柱塀5条(S A217～221)と井戸2基(S E501・502)、室町時代の井戸6基(S E503～508)と土坑3基(S K611～613)、江戸時代の掘立柱塀2条(S A222・223)と土坑2基(S K614・615)、時期の特定はできなかったが、溝1条(S D102)、掘立柱建物1棟(S B216)、土坑6基(S K616～621)、小穴がある。

S B213とS A217・219・220が奈良時代とみられ、位置関係からS A217はS B213の東を限る塀と考える。奈良時代末以後の建物には、S B214～216とS A

218・221があり、S B215の柱掘形・痕跡から9世紀代の土器が出土している。その他の建物は規模が小さく、建物の主軸が南北方向西で北に振れる。S E502は方形横板組で、高さ0.2～0.28m、厚さ0.03～0.05mの板を5段積む。S E503は井戸底に高さ0.35m、厚さ0.08m程度の板を方形に組んだ枠材を置く。また、枠材の裏込上層埋土中には、この枠材と天位置を揃えるように上面が平坦な自然石が11個残る。上段枠材の機能用途を考える。S E504は中段には太枠で繋いだ高さ1.0m、幅0.3m、厚さ0.05m程度の縦板9枚を、下段に高さ0.3mの桶を据える。縦板の上端から桶の下端までの高さは1.15m程度である。(宮崎正裕)

出土遺物 遺物整理箱で112箱ある。瓦類(97箱)と土器類(9箱)が大半を占め、その他に木製品(軒串、輪、曲物、下駄、横櫛)が少量化。

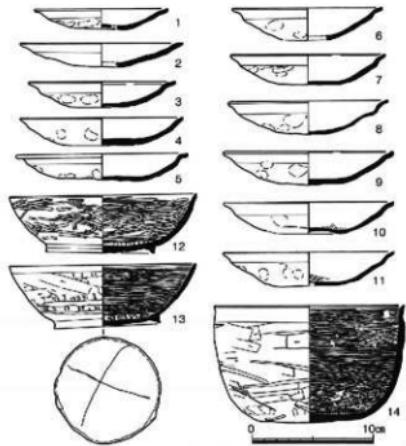
瓦類には奈良～江戸時代のものがあり、奈良時代の軒丸瓦は6316種不明(1点)、型式不明(7点)、軒平瓦は6732K(1点)・M(1点)・N(2点)・Q(3点)・R(2点)・X(1点)・Z(1点)・種不明(1点)、6739A(1点)、6763A(1点)、型式不明(3点)の計25点である。平安時代以降の軒瓦は軒丸瓦が45点、軒平瓦が25点の計70点である。その他、奈良・平安時代の面戸瓦(2点)、鷲尾(2点)、鬼瓦(2点)、埠(33点)がある。鷲尾は頭部と鷲部の断片で、前者はSK613、後者はSE501の枠内から出土した。なお、出土した頭部に酷似する資料が西大寺に所蔵されている¹⁾。埠には平面が直角三角形のもの(2点)と片面に段のあるもの(3点)の断片が含まれる。丸瓦と平瓦の内訳は、丸瓦が1,872点(287,850g)、平瓦が5,002点(754,395g)、丸瓦か平瓦いずれか不明が3,241点(38,341g)である。他

SD第18次調査

検出遺構一覧表

遺構番号	袖方向	規模		航行全長 (m)	航行全高 (m)	柱間寸法(m)		備考
		航行×梁行(間)	(間)			航行	航行	
S B202	南北	3×2	7.2	4.8	2.4等間	24等間	S D16次調査底から梁行2箇と判明	
S B203	南北	7×2	11.9	3.6	1.7等間	18等間	欄柵(S A203)ではなく、植物と判明	
S B207	東西	3以上×1以上	6.3以上	1.8以上	2.1等間	1.8	西側の調査成績から、航行は6間以上との植物になる	
S B208	南北	4×1以上	8.4	3.0以上	2.1等間	3.0	S B209、SK610よりも古い	
S B209	南北	3以上×1	5.4以上	3.6	1.8等間	3.6	S B208よりも新しく、SK610よりも古い	
S B210	南北	2×1	3.8	3.6	1.9等間	3.6	S K608よりも新しい	
S B211	南北	1以上×2	2.7以上	4.8	2.7	24等間	S K609よりも新しい	
S A212	東西	2以上	8.7		西から39～48			

遺構番号	断面			主な出土遺物	備考
	平面形	平面規模(m)	深さ(m)		
S K606	溝状	南北4.5×東西2.1	0.05(南半)～0.4(北半)		匣上は淡灰茶色粘砂
S K607	不整形	南北3.5×東西4.7以上	0.3	奈良時代土師器・埴輪器	S K608よりも古い
S K608	溝状	南北2.0×東西8.8以上	0.05～0.1	奈良時代土師器・埴輪器、黑色土器A類	S K607よりも新しい
S K609	円形	南北4.2以上×東西6.0以上	1.8	奈良時代土師器・埴輪器、須石	S B211、SD101よりも古い
S K610	L形	南北8.8×東西4.4	0.5	瓦類陶器・瓦器、土師器羽器	S B208よりも新しい
S D101	東西素掘溝	幅1.2、長さ12.5以上	0.15(西端)～0.3(東端)	瓦器、瓦質土器指輪、青磁碗	S K609よりも新しい



SD第19次調査 SE502枠内出土土器 1/4

に雁振瓦(22点)と桟瓦が11点(130g)ある。

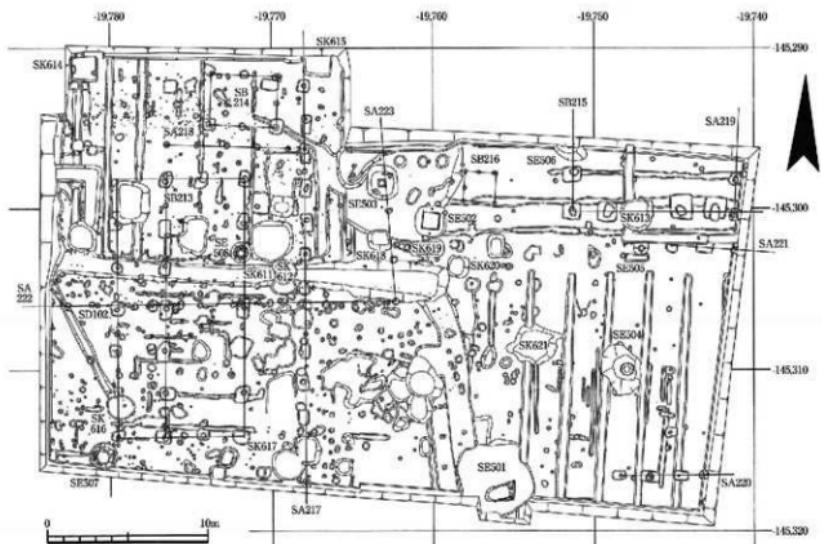
土器類には奈良・平安時代の土師器、須恵器、黒色土器A類、縁軸・灰釉陶器、瓦器、瓦質土器、陶磁器がある。また、土師器椀Aに「夫」・同杯Aに「中」(SE501枠抜き取り出土)、黒色土器A類の椀か皿に「一」・同椀に「二」(SE502枠内出土)、陶器椀か皿に「六」(SK619出土)といずれも底部外面に墨書きされたものが各



SD第19次調査 発掘区西半全景(東から)



SD第19次調査 発掘区東半全景(北から)



SD第19次調査 遺構平面図 1/300

1点出土した。図示した土師器杯・皿（1～11）と黒色土器A類碗（12・13）・鉢（14）は、残りの良い黒色土器A類がまとまって出土したS E 502件内のものである。これら遺物の時期は、土師器杯・皿の底部が丸底になる傾向はあるが、口径11cm前後の小型のものが見られることや黒色土器A類碗の形態などから、10世紀中頃～後半のものと考えられる。他に縁軸・灰釉陶器なども出土していることから、西大寺という遺跡の特徴が反映されている土器群と言えよう。（宮崎正裕・池田富貴子）

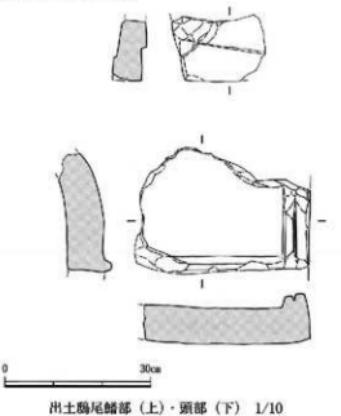
調査所見 想定していた坊間東小路は検出できなかつ



S D第19次調査 S E 502（西から）

たが、三坪内で時期、構造が多様な井戸を検出した。さらに江戸時代の遺構もみられる状況から、西大寺が創建された奈良時代末より江戸時代に至るまで、一帯は連続と利用されていた様子がわかる。（宮崎正裕）

1) 奈良県教育委員会・奈良国立文化財研究所「西大寺防災施設工事発掘調査報告書」西大寺 1990



出土鶲尾鱗部（上）・頭部（下） 1/10

S D第19次調査 検出遺構一覧表

遺構番号	傾方向	幅（m）	幅合全長	墻合全長	柱間寸法（m）	前の柱	後の柱
S B213	南北	0.2	1.62	0.6	2.7年間	2.5年間	S A222, S E 506, S K 616, S D 102とも古い。
S B214	東西	2×2	4.2	3.0	2.1年間	1.5年間	北側の柱穴が大きく、東側が西に比べて古い。
S B215	東西	4×1.5±	9.2	2.6以上	2.3年間	2.1	S A219よりも新しい、S E 506, S K 612よりも古い。
S B216	南北	2×2	1.8	1.8	0.9年間	0.9年間	
S A217	南北	1.3	2.73		2.1年間		S A215よりも古い。
S A218	東西	4	7.6		1.9年間		柱間が南北に比べて古い。
S A219	南北	1.3±	2.44±		1.4		S B215よりも古く、西側柱か内蔵柱の可能性もある。
S A220	南北	2.0±	3.88±		1.8年間		主柱材の柱間材もある。
S A221	東西	2.1±	4.25±		2.1年間		
S A222	東西	1.1±1.3	2.0±1.1		1.8年間		S B213よりも新しい。床板でS A223に繋がる。
S A223	南北	2.1±	5.7±1		用柱±2.6±1		南北でS A222に繋がる。

遺構番号	南北		東西		南北出土遺物	南北
	平面形	平面周長（m）	南北（m）	東西（m）		
S E 501	不規形	南北2.0×東西5.0	1.9	方形容板脚斜筋洗削	-	
S E 502	南北2.0×東西1.95	1.5	方形容板脚	-	(神振式) 10世紀の黒色土器（内部）10世紀	南北で一箇所洗削されたり。横手は各2段あり、北・南側の洗
S E 503	南北2.2×東西1.9	2.1	Y段：方形容板	-	(内側) 10世紀の黒色土器（内部）10世紀	は直・南側に比べて、各段ともに2段程度高い。
S E 504	南北2.1×東西2.6	2.6	中段：方形容板斜筋	-	(内側) 10世紀の黒色土器（内部）10世紀	
S E 505	南北0.81×東西1.9	0.7	Y段：曲面	-	(中段) 13世紀～14世紀中期の土師器群、瓦質土器	基下段の汚泥は黒鐵として、場の傾斜を強く。
S E 506	平型	南北2.1±×東西2.2	1.6	Y段：曲面	12世紀～13世紀の土師器群	上部の荷役引き取扱いは縦筋内で見える
S E 507	円形	直径1.75	0.7	円筒石樋	（神）足踏形の丸底、丸底、土師器群・瓦段、瓦質土器、白磁器、白磁器、白磁器	上部荷役引き取り。中央は丸底から腰が直上。段高約内径=0.3m=0.3mの標準形で、下段内径は倍の0.65m。
S E 508	円形	直径1.25	1.9	上段：円板瓦・瓦筋 下段：瓦質土器	上部荷役引き取り	
S E 511	円形	南北1.1±×東西1.5	0.5		（神）足踏形の丸底、瓦筋、瓦質土器、華州窓口器	瓦窓口外に高く、上部荷役引き取り。S D 215よりも新しい。
S E 512	円形	南北1.5×東西1.7	1.9		↑白磁器、瓦筋	
S E 513	円形	南北2.0×東西2.0	1.7		↑白磁器、瓦筋	S E 611.1よりも新しい。
S E 514	方形	南北1.6×東西1.6	0.6		↑白磁器	S E 215.4よりも新しい。
S E 515	方形	南北1.13±×東西1.5	0.3			S A217よりも新しい。
S E 516	円形	南北1.5×東西1.8	0.5		↑白磁器、瓦筋、瓦質土器、華州窓口器	
S E 517	円形	南北1.5×東西1.2	0.7		↑瓦質土器	S E 611.1よりも新しい。
S E 518	円形	南北1.3×東西1.5	0.3		↑瓦質土器、方形容板	
S E 519	円形	南北1.0×東西2.2	0.3		↑瓦質土器、方形容板、方形容板、茅葺土器	
S E 520	圓形	南北1.3×東西1.1	0.1		↑瓦質土器	
S E 521	不規形	南北1.3×東西1.3	0.1		↑瓦質土器、瓦質土器	
S D 10	近隣	南北0.5×東西0.5	0.15±0.25		13世紀の土層剖面図・瓦	S D 213よりも新しい、S K 612よりも古い。

(3) H J 513次調査

調査地は平城京の条坊復原では右京二条三坊一坪の北東部にあたり、すぐ北側には一条南大路が、東側には東二坊大路が想定される。同坪内ではこれまでに、4件（市H J第51次調査：昭和58年度、国第183-18次調査：昭和62年度、市H J第378-1次調査：平成9年度、市H J第511次調査：平成15年度）の調査が行われている。これらの調査で、古墳時代の自然流路1条、奈良時代の掘立柱建物1棟、掘立柱塀1条、井戸3基、土坑1基、中世の旧河川、小土坑、溝、井戸、近世の溝を検出している。奈良時代の建物跡は少ない。今回の調査では、一坪北半部の様相を把握すること、および条坊遺構の検出を目的として実施した。

基本層序 上から、造成土（約1.2m）、黒色土（水田耕土、約0.15m）と続き、地表下約1.35mで黄灰色砂質土の地山に至る。遺構面は地山上面で、地山上面の標高は概ね70.0mである。

検出遺構 奈良時代後半～平安時代初頭の井戸3基、土坑2基と奈良時代と思われる柱穴1個があり、また、江戸時代以降の耕作に伴う溝がある。井戸と土坑については下表の通りである。

出土遺物 整理箱で19箱分出土した。出土遺物の大半は8世紀後半～9世紀初頭の土師器・須恵器、8世紀の丸瓦、平瓦である。そのほかに、製塙土器、漆が付着した土師器・須恵器、SE507から漆紙文書、瑪瑙が、SE505から水晶等がある。以下で、漆紙文書について述べる。

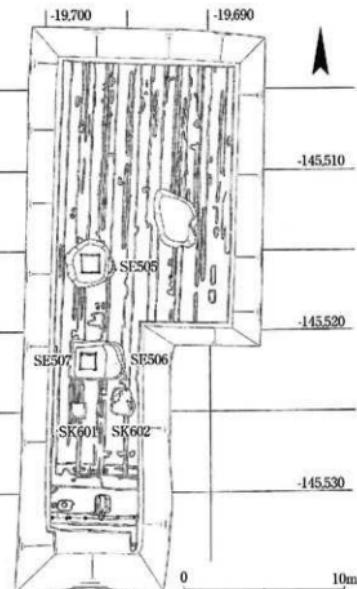
漆紙文書 井戸SE507から12片が出土した。すべて断片となっていたが、非常に鮮明に文字が残っていた。大きいものは一辺7cm程度、小さいものでは一辺1cm程度で、六十干支、五行（納音）、七十二候、六十卦、吉凶や生活指針を記した十二直の文字があることから暦であることがわかる。

出土した漆紙の断片には漆が円弧状に厚く付着する部分があり、漆容器の縁に当たる部分であると思われる。漆液を保存するために用いる曲物や土器が円形であるため、「ふた紙」として用いられた漆紙文書はだいたい円形か、あるいはそれを二つに折りたんだ半円形で残る

事が多い。漆が比較的厚く付着している部分の大きさから、器の内径は約12cmに復原でき、杯または皿状の土器の「ふた紙」として使用されたものと思われる。容器



H J 第513次調査 発掘区全景（南から）

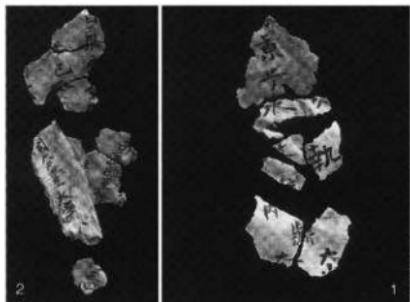


H J 第513次調査 遺構平面図 1/300

H J 第513次調査 検出遺構一覧表

遺構番号	層 形		井戸名	主な出土遺物	備考
	平面形	平面気高 (m)			
S H 505	扇形	東20.0、南22.9	2.55上	方形容板面柱塀残	10 土師器、須恵器、板足土器、漆、漆付土器、瓦、丸瓦、水口
S R 506	扇形	東20.05上、南22.9	1.6		土師器、須恵器、漆付土器、丸瓦
S R 507	扇形	東20.24、南22.4	2.5	方形容板面柱塀残	6.9 土師器、瓦、土器、須恵器、漆付土器、板足土器、漆、丸、平瓦、瓦、環、漆器、文書
S K 601	扇形	東20.09、南21.0	0.9		土師器、瓦、土器、須恵器、漆、丸、平瓦、瓦、漆器、瓦
S K 602	六边形	東20.15、南21.7	0.4 ~ 0.8		土師器、瓦、漆器、瓦、漆

(オモテ面)



漆紙文書赤外線写真

出土した古代の具注曆

年	月	日	時	干	支	月名	暦名
1	右原跡 (奈良城明日香村)	本 壱	持統大和 3 (659) 年正月廿五	元	未	壬午	元未替
2	左原跡 (勝瀬町御所當)	本 壱	持統 6 (672) 年正月廿五	己	未	辛未	己未替
3	武藏台跡 (奈良城明日香村)	傳承文書	天平勝宝 9 (737) 甲辰正月	庚	未	庚辰	庚辰替
4	御城跡 (奈良城明日香村)	傳承文書	天平寶字 8 (764) 甲辰正月	辛	未	辛巳	辛巳替
5	止木道跡 (奈良城多賀町)	傳承文書	天平寶字 8 (764) 甲辰正月	壬	未	壬午	壬午替
6	平城宮跡 (奈良市)	本 壱	奈良延喜 10 (900) 年正月廿五	癸	未	癸未	癸未替
7	平城宮跡 (坂路二条・三条・四条)	傳承文書	宝亀 9 (778) 年正月廿五	大	未	大和	大和替
8	多賀城跡 (笠置町多賀町)	傳承文書	宝亀 11 (780) 年正月廿五	人	未	人未	人未替
9	篠子C跡 (深川町石野村)	傳承文書	知弘 9 (790) 年正月廿五	大	未	大和	大和替
10	御城跡 (若子町長谷町)	傳承文書	延暦 22 (803) 年正月廿五	大	未	大和	大和替
11	御城跡 (若子町長谷町) 漆の裏面	傳承文書	延暦 23 (804) 年正月廿五	大	未	大和	大和替
12	大和古跡 (奈良縣大和町)	傳承文書	延暦 23 (804) 年正月廿五	大	未	大和	大和替
13	篠子D跡 (坂路二条・三条・四条)	傳承文書	平代承和 (延喜四年) 具注曆	大	未	大和	大和替
14	多賀城跡 (笠置町多賀町)	傳承文書	弘仁 12 (821) 年正月廿五	大	未	大和	大和替
15	御城跡 (若子町長谷町)	傳承文書	泰祥元 (860) 年正月廿五	大	未	大和	大和替
16	東上の跡 (坂路二条・三条)	傳承文書	今奈延喜 10 (900) 年正月廿五	大	未	大和	大和替
17	丸山跡 (勝瀬町丸山町)	傳承文書	今奈延喜 10 (900) 年正月廿五	大	未	大和	大和替
18	渡辺跡 (坂路二条・三井町)	傳承文書	今奈延喜 10 (900) 年正月廿五	大	未	大和	大和替
19	多賀城跡 (笠置町多賀町)	傳承文書	平承和 (延喜四年) 具注曆	大	未	大和	大和替
20	坂路跡 (坂路大和町)	傳承文書	平承和 (延喜四年) 具注曆	大	未	大和	大和替

は大きさから小分け用（パレット）とみられる。漆紙文書を読み解く際に、「ふた紙」の外側の面を「オモテ面」と呼び、漆液と密着し、漆が紙に付いた内側の面のことと「漆面（または漆付着面）」と呼ぶ。

「オモテ面」の記載内容をみると、写真1にみえる「景子」は干支の丙子が避諱により表記が変わったもので、五行（納音）の「水」にあたる。これに続く破片をつなぎあわせると、「執」という文字がある。「執」は十二直で上部の「寅」から続き、「執」が「寅」にあたるのは節月の五月であることから、「景子」に続く十二直は「破」と判読できる。その他六十卦の「崩内」、曆注の「大小」や「大」という文字がみえる。写真2では「日庚辰 金」「辛巳 金」という干支の「庚辰」、「辛巳」と納音の「金」の接続には矛盾はない。六十干支から写真1から2の順に続くことがわかる。中程の「成 温風至候」は七十二候の六月節初候であり、この日が6月節の小暑となるので、残画については「六月（節）」で矛盾はないと思われる。左上の「閉」は節月の六月の午にあたり、干支は壬午となり、上段の「辛巳」の次行の十二直とみられ



出土漆紙文書

る。この年の小暑は「庚辰」の前日である己卯であることがわかる。また下段に「大歲」という記載がみえるが、儀鳳曆では大歲と小歲が一致する場合に「大小歲」とする以外は大歲を歳とのみ記すことから、この暦は大衍暦以降のものであることもわかる。大衍暦が用いられるようになつた天平宝字8(764)年以後、9世紀前半までで、小暑の六十干支が己卯に当たる年をさがしてみると、宝亀9(778)年以外にないことがわかる。また、5月29日の「火歎 大小」、6月1日の「景子水破 □崩」、4月「温風至候」、5日の「大歲後」、6日の「大歲後天」、7日の「大夫妻 大歲後天恩」のいずれもが一致する。よって、この具注曆が宝亀9(778)年5月29日～6月7日ものであることがわかる。しかし本来ならば6月6日にあるはずの「除手足甲」の記載が、1日ずれた6月5日に「手足甲」となり、月建記事が書かれていないなどの間違いがみえる。正倉院に残る具注曆をはじめ各地から出土している具注曆には必ずといってよいほど誤写がある。また、「漆付着面」にも「去就」「權」「位」「□〔変カ〕」などの文字が確認できたが、その内容については不明である。これまでに具注曆の出土は20例が知られている（表参照）が、本例は平城京内では初めての出土で、大衍暦としては最古の例となる。

調査所見 今回の調査では条坊に関する遺構は確認できなかった。また、この坪では井戸に比べて、建物跡が少なく、今回検出した柱穴も残存状況が良くない。後世にかなり削平を受け奈良時代の遺構の大半は壊されているものと思われる。

(山前智教)

漆紙文書の解説については、名古屋大学大学院文学研究科助教教授古尾谷知浩氏ならびに奈良文化財研究所資料叢書室にご教示をいただいた。また赤外線写真是奈良文化財研究所室村一郎氏の撮影による。記して感謝します。

3. 平城京跡（右京八条四坊八坪）の調査 第514次

調査次数	HJ第514次	調査期間	平成16年5月6日～5月28日
工事内容	宅地造成	調査面積	200m ²
届出者名	株式会社ベース	調査担当者	秋山成人
調査地	奈良市七条西町一丁目1057の一部他		

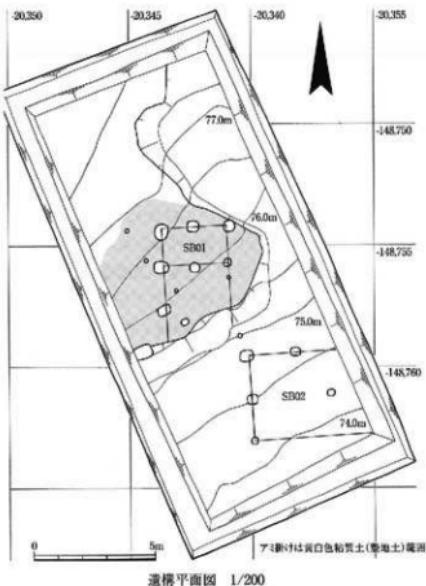


基本層序 地形は、丘陵尾根南側斜面に位置し、北西から南東方向に下降している。上から黒灰色土(表土)0.2m、灰色土0.25m、灰褐色土0.35m、褐灰色土0.3m、淡黄褐色土0.1m、赤褐色土0.25mと続き発掘区中央に黄白色粘質土(整地上)0.25mと発掘区南半に茶褐色土(整地上)0.25mが部分的に広がり、以下黄灰色土(地山)が堆積する。遺構検出面の標高は、発掘区北西隅で79.6m、発掘区南東隅で74.5mである。

検出遺構 S B01は、桁行2間(3.3m)以上、梁行2間(3.0m)の南北棟建物と考えられ、北から1間目に間に仕切りがある。柱間寸法は、桁行が北から1.5m-1.8m、梁行が1.5m等間である。柱掘形から奈良時代(8世紀)の須恵器壺片、柱痕跡から奈良時代(8世紀)の土師器壺片、須恵器杯片が出土した。S B02は、発掘区南半で検出した桁行2間(3.3m)以上、梁行2間(3.6m)の東西棟建物である。柱間寸法は桁行が西から1.8m、梁行が1.8m等間である。柱掘形から奈良時代(8世紀)の土師器小片、柱痕跡から奈良時代(8世紀)の須恵器小片が出土した。

出土遺物 出土遺物の多くは、淡黄褐色土から出土しており、奈良時代(8世紀)の土師器壺・杯・杯蓋・高杯・皿、須恵器杯・杯蓋・壺・平瓶が遺物整理箱に4箱分ある。その他に、弥生土器1点。奈良時代(8世紀)の丸・平瓦が1箱ある。

調査所見 調査地は、傾斜面の為、掘立柱建物等の遺



構が存在する可能性は低いと思われた。しかし調査の結果、丘陵の傾斜面を整地して建てられた奈良時代の掘立柱建物を2棟検出したことで、当時の土地利用状況を把握する上で重要な資料を得た。

4. 油坂遺跡・平城京跡（左京三条東四坊大路）の調査 第515次

調査次数	HJ 第515次	調査期間	平成16年7月20日～9月7日
工事内容	芝辻大森線街路整備補助事業	調査面積	239m ²
通知者名	奈良市長	調査担当者	秋山成人
調査地	奈良市大宮町二丁目124-3他		



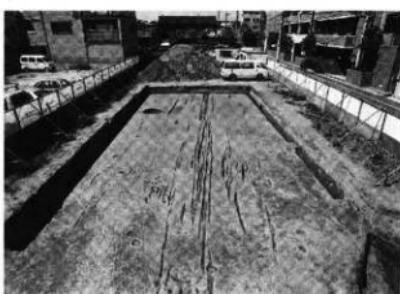
発掘区位置図 1/6,000



下層遺構検出面（北から）

基本層序 上から造成土、黒灰色土（水田耕土）、茶褐色土、黄灰色砂砾、黄灰色土、褐色土、淡黄灰色土と続き、その下に2条の自然流路の堆積があり、地山の黄灰粘質土、黄灰色粘土、青灰色砂砾に至る。

検出遺構 遺構面は2面あり、それぞれで遺構検出を行った。下層の遺構面は、自然流路埋土の暗黄灰色土及び淡黄灰色粘質土上面で、土坑を検出した。SK01～04は平面不整形の土坑で、一辺2.0～3.5m、深さ0.22～0.52m。埋土は褐色土で遺物は出土しなかったが、古墳時代前期初頭以前と考える。上層の遺構面は、褐色土及び淡黄灰色土上面で、弥生時代後期末から古墳時代前期初頭の溝・井戸と奈良時代の道路・道路側溝、南北西隅拡張部の黄灰色土上面で江戸時代の井戸を検出した。SD05は北東から南北方向に延びる溝で、長さ3.5m以上、幅27m、深さ1.1m。埋土は9層からなり褐色粘質土から弥生時代後期末の甕が出土。SE06は発掘区北西部で検出した井戸で、径2.6m、深さ1.95m。掘形は平面円形、二段に掘られている。埋土は暗灰色土、古墳時代前期初頭の甕（庄内式）、木片が出土。SF07（東四坊大路）は検出幅13.2m。発掘区外東へ広がる。路面舗装は無く、大路に平行する南北方向の細い溝が数条みられる。長さ1.5～8m、幅0.1～0.15m、深さ0.03～1.0m。埋土は褐色砂で、須恵器甕小片が出土。SD08は発掘区西南隅拡張部で検出した東四坊大路西側溝で、東肩部を検出した。長さ2.0m、幅1.1m、深さ0.6mまで確認した。埋

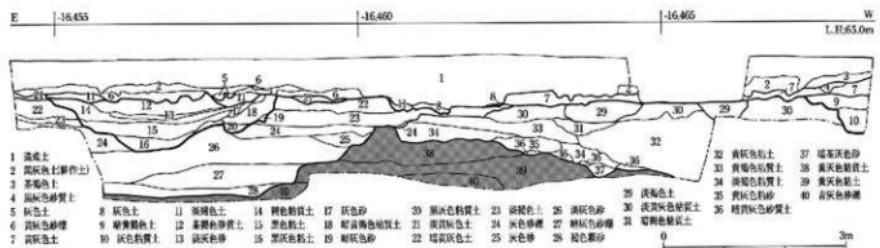


上層遺構検出面（南から）

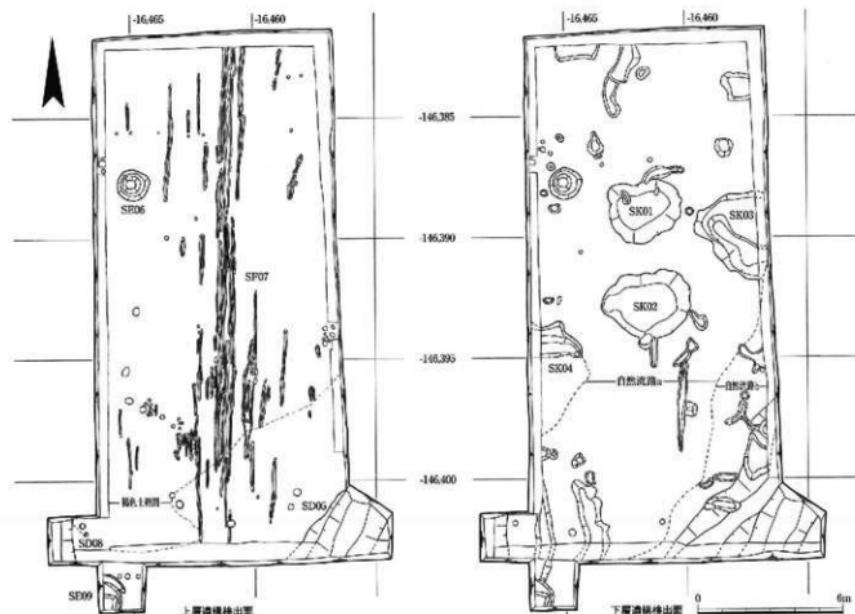
上は上層が暗黄褐色土、下層が灰色粘質土。下層から須恵器小片が出土した。SE09は発掘区西南隅拡張区外へ広がる井戸で、掘形と井戸枠抜取り痕跡の一部を検出した。掘形は垂直に掘り込まれている。抜取穴埋土は黒褐色土で、江戸時代の肥前産磁器が出土した。

出土遺物 遺物整理箱にして土器類3箱、瓦類1箱と、サヌカイト製石器（削器、石鎌未製品、剥片）4点、木片8点、桃の種2点がある。

調査所見 平城京東四坊大路路面及び西側溝を推定どおり検出した。また、過去の周辺での調査において、弥生時代後期末から古墳時代前期初頭にかけての溝を検出していたが、今回、さらに溝・井戸を検出したことから付近にこの時期の集落が存在する可能性が高くなった。



发掘区南壁土层图 1/80 (9 ~ 10 SD08, 12 ~ 20 SD05, 21 ~ 28 自然流路 b, 30 ~ 37 自然流路 a)



溝 SD05 (南西から)



溝 SD08 (北から)

5. 平城京跡（左京一条三坊十五坪）の調査 第516次

調査次数	H J 第516次	調査期間	平成16年7月12日～7月13日
工事内容	グループホーム新築	調査面積	37m ²
届出者名	有限会社コクセイ	調査担当者	三好美穂
調査地	奈良市法華寺町1416番1		



発掘区全景（東から）

調査地は、左京一条三坊十五坪の南東部に位置する。

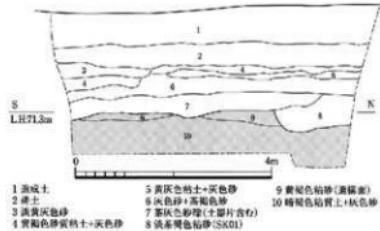
左京一条三坊十五坪については、これまでに国道24号線の敷設に伴う調査¹⁾（国第55・56次調査：昭和44年度）が行われており、十五坪と十六坪は一宅地とみられている。

今回の調査は、建設される建物基礎は浅く、遺構面までに到達しないことから、浄化槽を設置する部分を中心に東西約12m、南北約3mの発掘区を設定して実施した。

基本層序 造成土（0.3～0.4m）の下に耕土（約0.2m）、淡黄灰色砂（0.05m）、灰色砂が混じる黄褐色砂質粘土（0.05m）、灰色砂が混じる黄灰色粘土（約0.2m）、灰色砂が混じる茶褐色砂（約0.2m）、奈良～平安時代の土師器、須恵器片や瓦片を含む茶灰色砂礫（約0.2m）となり、現地表から約1.1～1.2mで黄褐色粘土、灰色砂が混じる暗褐色粘質土となる。遺構検出は、黄褐色粘砂上面で行った。

検出遺構 発掘区の北西隅で、黄褐色粘砂上面から掘り込まれた土坑SK01を検出した。SK01の平面形の大きさは東西1.8m以上、南北1.0m以上で、検出面からの深さは約0.4mある。淡茶褐色粘砂で埋まるが、出土遺物は無く時期は不明である。

出土遺物 大半が黄褐色粘砂の上に堆積する茶灰色砂礫から出土したもので、土師器片（皿A、杯または皿、甕）、須恵器片（杯、甕A蓋、甕）、製塙土器片・丸瓦片・円筒埴輪などがあるが、いずれも小片で量もわずかである。



ある。土師器皿A破片は、器壁が薄く、口縁部が外方へ大きく開いており、9世紀後半～10世紀初頭に位置づけられるものである。

調査所見 今回の調査は小規模なものため、頗著な遺構の検出はなかったが、遺物包含層に平安時代前半の土器が含まれることが確認できた。

十五・十六坪の遺構は、奈良時代の初頭の遺構と奈良時代末から平安時代初期の遺構からなることがこれまでの調査から指摘されている。

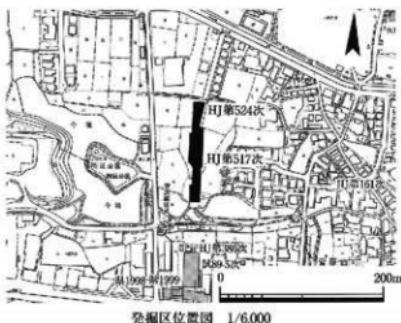
東三坊大路東側溝S D650からの出土した大量の平安時代の遺物や南接する十三・十四坪の平安時代の建物群や井戸などの遺構とともに今回の調査も古代の奈良坂とされる東三坊大路沿いが平城庭都後も盛んに利用されたことをうかがわせる。

1) 奈良国立文化財研究所「平城宮発掘調査報告VI」1975

6. 平城京跡（二条大路・右京三条四坊九坪）の調査 第517・524次

調査次数	HJ 第517・524次
工事内容	大和中央道街路整備臨時交付金事業（菅原工区）
通知者名	奈良市長
調査地	奈良市菅原町639-2他

調査期間	517次 平成16年7月26日～12月28日
	524次 平成17年1月6日～3月11日
調査面積	517次 1,100m ² 524次 458m ²
調査担当者	久保清子 山前智敬



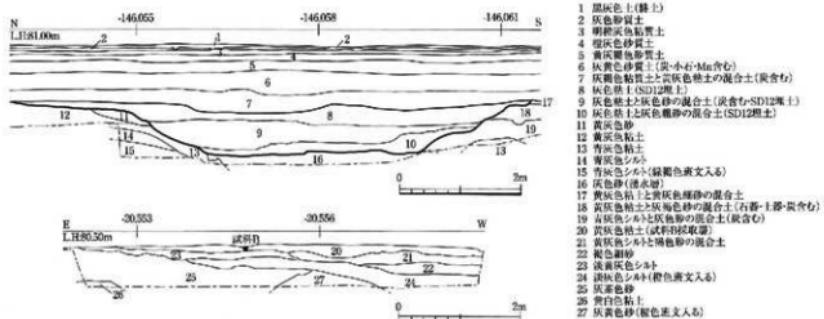
調査地は、平城京の条坊復原では、右京三条四坊九坪の西辺及び二条大路が想定される地点にあたり、北と南にある段丘にはさまれた、西から東へ緩やかに下がる沖積地上に位置している。また、調査地から南と西側に向かっては一段低い谷地形となっており、調査地西側の今池はこの谷を堰き止めて造られている。

基本層序 発掘区の層序は、この旧地形の影響もあり、一定ではない。北から順に概述すると、第524次調査発掘区では、上から耕土、灰色砂質土、橙灰色砂質土、黄灰褐色砂質土、13世紀の水田耕土である灰黄色粘土と続き、地表下約0.6mで黄褐色粘土に達する。第517次調査北発掘区の北西部では、上から水田耕土、灰色砂質土、

明橙灰色粘土、橙灰色砂質土、黄灰褐色砂質土と続き、地表下約0.5mで黄灰色砂に達する。北東部では、黄灰褐色砂質土の下には、13世紀の水田耕土である灰黄色砂質土（0.2～0.3m）と灰黄色粘土（0.2～0.3m）が堆積し、地表下約1.0mで黄灰色砂に達する。北発掘区南半から南発掘区北端にかけては、上から耕土、灰色砂質土、橙灰色砂質土、黄灰褐色砂質土、灰褐色砂質土と続き、地表下約0.5mで绳文時代の石器、土器、炭化物を包含する黄灰色シルト層に達する。一方、南発掘区では、鎌倉時代以降の水田造成による削平を受けているため、耕土、灰色砂質土の直下、地表下約0.3mで淡灰色砂と茶灰色粘土の混合土、黄灰色シルトもしくは黄灰色砂等の旧河川堆積土に達する。南発掘区西半中央付近では、耕土直下で、旧河川の下層にあたる黄灰色砂礫層に達する。一方、発掘区南端は、調査地の南側にある谷筋に向かって下がる斜面上にあたるため、13～18世紀の遺物を包含する埋土が南に向かって厚く堆積している。

遺構検出は、第524次調査発掘区では、黄褐色粘土上面（標高80.4～80.6m）、第517次調査北発掘区では、黄灰色砂及び黄灰色シルト上面（北西～南半の標高80.3m、北東の標高79.8m）、南発掘区では、旧河川埋土上面または黄灰色砂礫上面（標高80.2～80.5m）で行った。

検出遺構 古墳時代以降の素掘り溝3条、土坑3基、奈良時代の掘立柱建物1棟、掘立柱列2条、土坑1基、

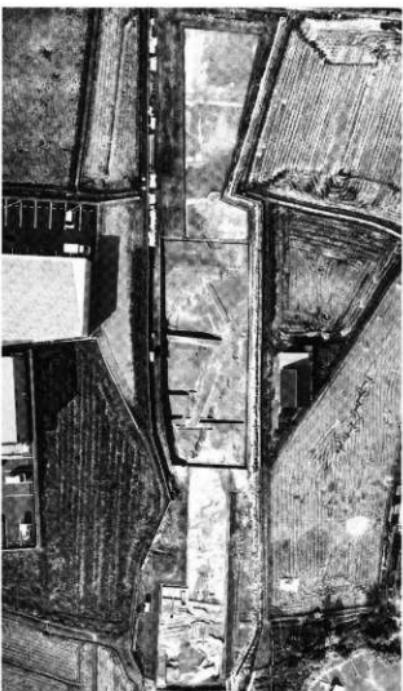




H J 第 524 次調査 発掘区全景（南から）



H J 第 517 次調査 北発掘区全景（南から）



H J 第 517・524 次調査 発掘区全景（上が北）



H J 第 517 次調査 南発掘区全景（北から）



H J 第 517 次調査 南発掘区下層調査区 石器出土状態（南から）



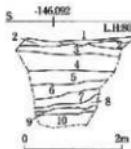
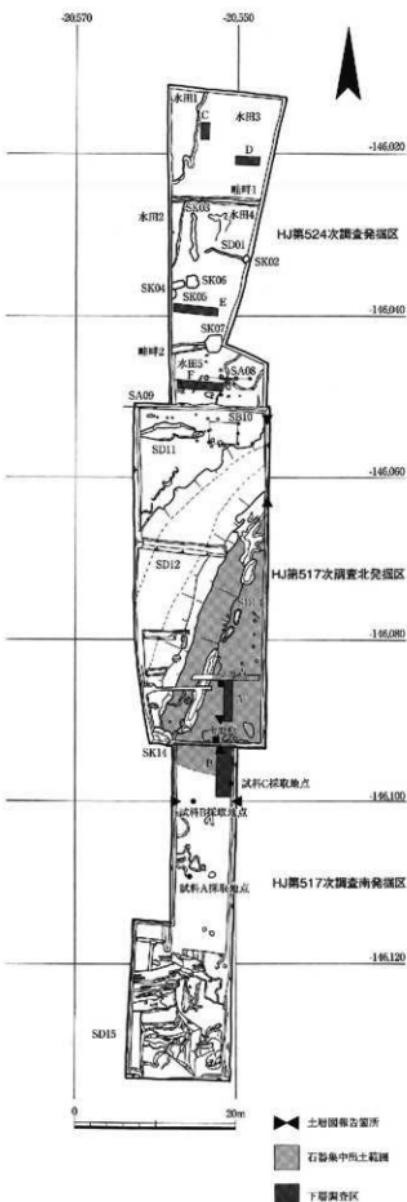
H J 第 517 次調査 SD15 全景（東から）



H J 第 517 次調査 南発掘区下層調査区 石器出土状態（南から）

流路1条、鎌倉時代の水田5面、畦畔2条、室町時代以降の土坑1基、時期不明の土坑3基がある。

二条大路想定箇所である第524次調査区及び第517次調査北発掘区北半では、黄灰褐色砂質土下で13世紀の水田5面を検出した。西側の水田1（東西3.5m以上、南北12.0m以上）及び水田2と東側水田3（東西10.0m以上、南北13.0m以上）及び水田4（東西9.0m以上、南北18.0m）間には段差があり、東側水田の方が低い。東西水田間の畦畔は削平されて残っていない。また、南北の水田間（水田1・3と水田2・4間及び水田5（東西11.0m以上、南北7.0m以上）間には、地山を割りだして造られた畦畔1・2の基底部（幅0.6~0.9m、残存高0.1~0.2m）が残っていた。検出面から水田面までの深さは0.1~0.3mで、水田面においては、耕作に使用されたとみられる牛の足跡を多数確認している。水田耕土である灰黄色粘土からは繩文~弥生時代の石器、8世紀の須恵器・土師器・製塙土器・土製品・瓦磚、12~13世紀の瓦器・土師器・須恵器・輸入陶磁器・焼締陶器・軒丸瓦（巴文）、錢貨（天祐通寶）、時期不明輪羽口・炉壁・鉄滓が出土した。なお、二条大路は、右京部分では4地点（国第143・133次調査・市丘J第169・173・184・196-1・2調査）において南側溝が検出されており、その成果から、畦畔2と南側溝想定箇所はほぼ一致することがわかった。次に水田4下において、一辺0.5~5.9m、検出面からの深さ0.1~0.2mの平面が不整形な土坑SK02~06及び幅0.2~0.3m、検出面からの深さ0.1mの溝SD01を検出した。8世紀の須恵器が出土したSK05以外は、土師器・須恵器片のみ出土もしくは出土遺物がないため明確な時期及び性格は不明である。重複関係から、SD01はSK02よりも古い。SK07は一辺2.0~2.1m、検出面からの深さ0.2mの平面が不整形な土坑で、畦畔2の上面から掘られている。畦畔2の南側、九坪北端にあたる地点では水田5下で、東西3間（5.4m:1.8m等間）の掘立柱列SA08、東西1間（1.8m）以上の掘立柱列SA09、その南側で幅1.0~3.0m、検出面からの深さ0.1mの東西方向の溝SD11、桁行2間（3.6m）、梁行2間（2.7m）の東西棟掘立柱建物SB10を検出した。これらは、奈良時代のものと考えられる。さらにその南側では、幅



HJ第517次調査 北発掘区b地点上層図 1/100

構造平面図 1/600

1.0~3.0m、検出面からの深さ1.0~1.3mの流路 S D12が谷地形に沿って北東から南西に流れる。上層埋土からは8世紀の須恵器・土師器、13世紀の瓦器・須恵器・土師器・輸入陶磁器が、下層埋土からは縄文~弥生時代の石器、8世紀の須恵器・土師器・製塩上器・土製品・瓦器が出土した。S D12南側では、縄文時代の遺物を包含する黄灰色シルト上面で、幅0.5~1.5m、検出面からの深さ0.1~0.4mの断面形U字形の溝 S D13と径2.0m以上、検出面からの深さ0.5mの平面が不整円形の十坑 S K14を検出した。S D13からは8世紀の須恵器、S K14からは縄文~弥生時代の石器、時期不明の須恵器が出土した。第517次南発掘区南端においては、13~18世紀の土器、陶磁器を包含する谷の北斜面の堆積土の下で、幅3.0m以上、検出面からの深さ1.0mの東西方向の溝 S D15を検出した。溝の東半は13世紀以降に削平されているため残っていない。上層埋土からは6世紀後半~7世紀前半、8世紀の須恵器・土師器が、下層埋土からは6世紀後半~7世紀前半の土器が出土した。

下層調査 今回第517次北発掘区南半部での調査中に、遺構埋土及び遺構検出面である黄灰色シルト層から多数のサヌカイト製石器が出土したことから、発掘区内を6カ所掘り下げ、土層観察を行った。その結果、遺構は見つかなかったものの、S D12の南側の広範囲において、石器・縄文土器片・炭化物を包含する層が複数層にわたって堆積することが判明した。そのため、特に石器が集中する地点において2箇所、石器と土器の出土位置を記録しながら、包含層の剥削作業を行った。

第517次北発掘区A地点では、東西1m、南北5mの範囲を、第1層灰褐色砂質土と灰色粘土の混合土(0.1~0.15m)、第2層黄灰色粘土と灰色砂の混合土(0.2m)までを掘削した結果、サヌカイト製石器20点、楔形石器4点、石核1点、加工痕有剥片6点、剥片119点、碎片1513点、チャート製石片1点、計1664点、縄文土器破片30点が出土した。

南発掘区B地点では、東西2m、南北6mの範囲を、第2層黄灰色砂質土(0.1~0.15m)、第3層黄灰色シルト(0.2m)(掲載下層土層対応)までを掘削した結果、サヌカイト製石器32点、楔形石器13点、削器1点、石核5点、加工痕有剥片12点、使用痕有剥片1点、剥片149点、碎片708点、チャート製石片2点、計923点、土器破片340点が出土した。さらに下の遺物包含状態を確認するため、a、b 2地点で堆積土をサンプル採取し、篩を用いて水洗選別した結果、a 地点では上から5層目まで(検出面下1.0m)、b 地点では第2~6・10層(掲載下層土層対応、検出面下1.3m)までは確実にサヌ

カイト製石器が含まれることが判明した。

第524次発掘区内においてもC~Fの4地点に試掘坑を設けて、土層観察を実施したが、鎌倉時代の水田面である黄褐色粘土の下には、旧河川堆積層があるのみで、遺構及び遺物包含層はなかった。

出土遺物 遺構及び遺物包含層から縄文土器が遺物整理箱で1箱、弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器・埴輪、奈良~平安時代の土師器・須恵器・土製品・灰釉陶器、鎌倉時代の土師器・須恵器・瓦器・焼締陶器・輸入陶磁器、江戸時代の国産陶磁器が合わせて11箱、奈良時代及び平安時代以降の瓦礫類が6箱、銭貨4点(天喜通寶:北宋・初鑄1017年1点、銭文不明3点)、時期不明の金属製品、鋳造関連遺物1/3箱、縄文・弥生時代石器3411点、弥生時代の石包丁1点、時期不明の砥石4点等が出土した。

調査所見 調査結果から、調査地の旧地形が起伏に富んでおり、浸食と堆積による地形の変化がみられることが判明した。南北の段丘に挟まれた谷筋にあたるSD12南側付近には、周囲から土砂が流れ込んだ結果、遺物包含層が形成されたと考えられる。この遺物包含層からは、縄文時代の剥片及び碎片を中心とする多数のサヌカイト製石器及び土器の破片が出土したことから、調査地付近に石器製作地があった可能性が考えられる。

また、今回南発掘区で確認した旧河川の3地点において埋土最上層に含まれる炭化物を採取し、放射性炭素年代測定を実施したところ、試料AとBは補正¹⁴C年代2010±40(年B.P.)、曆年代(cal.B.C.)10年、試料Cは補正¹⁴C年代1860±40(年B.P.)、曆年代(cal.A.D.)130年という結果を得た。このため、弥生時代前半には、ほぼ埋没していたとみられる。

一方、奈良時代の九坪の様相については、南隣の十坪(市試掘第89-5次・市日丁第386次・県2000年度調査)では、奈良から平安時代にかけての建物や井戸等が複数見つかっているのに対して、宅地利用に関連する同様の遺構はほとんど見つかっていない。また、二条大路に関する遺構も見つからなかった。その理由としては、今回の調査地が坪の西端であるというだけではなく、地形が起伏に富んでいるため、鎌倉時代以降に水田造成によって遺構向が削平されたためと考えられる。

なお、永仁六年(1298)『西大寺三宝料田寄進日録』には、右京三条四坊九坪について「宇法陀寺」、右京二条四坊十三坪について「南大路也、法世寺」という注記がある。現在も調査地一帯の字名が「法寺」であり、付近にかつて寺院が存在したと推定されるが、今回の調査では、寺院に関わる遺構・遺物の検出はない。(久保清子)

7. 平城京跡（左京六条一坊十三坪）の調査 第518次

調査次数	HJ 第518次	調査期間	平成16年8月23日～10月28日
工事内容	店舗新築	調査面積	900m ²
届出者名	奈良トヨタ自動車株式会社	調査担当者	武田和哉
調査地	奈良市八条五丁目412-4他		

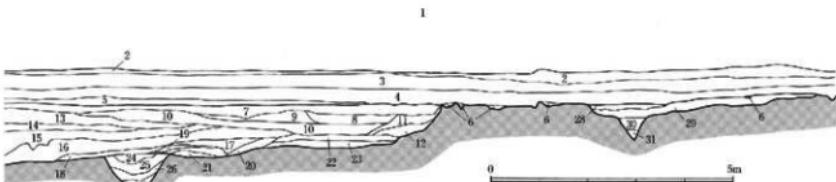


当坪内では過去に2例の調査例があり、このうち奈良大学が昭和60年度に実施した発掘調査区は、本調査地の敷地内南東側に隣接している。

基本層序 発掘区内では、上から順に、造成土（約1.4～1.7m）があり、ついで黒褐色土（耕土：約0.1m）、暗褐色粘土（床土：約0.3m）、暗茶褐色粘土（0.3～0.4m）と続き、現地表下約2.1～2.5mで茶褐色粘土または暗褐色粘土の地山に至る。奈良から平安時代の遺構面は、地山の上面であり、標高は55.6～56.0mである。

検出遺構 発掘区内では、奈良時代以前の溝、奈良～平安時代前半の建物8棟と溝2条、室町時代に埋没した河川等を検出した。主要な遺構のデータは、奈良大学が

-108,018 N39°E
L11=58.0



1:造成土 2:黒褐色土〔耕土〕 3:暗褐色粘土〔床土〕 4:暗茶褐色土〔含む層〕 5:暗灰褐色土〔含む層〕 6:茶灰色土〔素掘埋土〕 7:暗茶褐色土〔やや砂質〔化〕〕 8:暗灰色粘土 9:茶灰色粗砂 10:暗茶灰色砂 11:茶灰色砂 12:暗灰色粘土 13:暗茶色粘土砂 14:淡茶灰色砂 15:黑褐色色砂+灰色砂〔やや褐色がかる〕 16:淡茶灰色砂 17:淡茶色砂質土 18:黑色粘土 19:淡茶灰色砂 20:暗褐色粘土質土 21:茶灰色砂 22:灰褐色粘土 23:灰褐色粘土 24:暗灰褐色粘土砂 25:暗綠色粘土砂 26:暗綠褐色粘土砂 27:暗綠褐色粗砂 28:茶褐色粘土 29:暗茶褐色粘土 30:暗茶褐色粘土 31:暗茶褐色粘土 32:暗褐色粘土〔地山〕【7～23: 河川12埋土】【24～27: SD 01埋土】

発掘区西壁上層図（一部）1/100

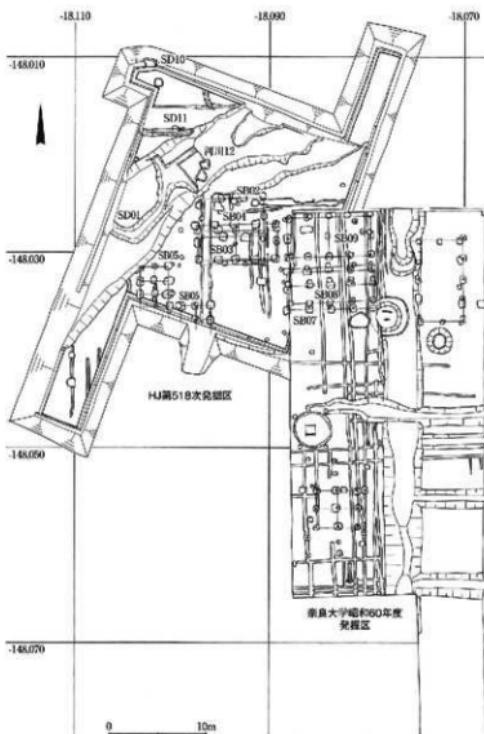
検出遺構一覧表

建物遺構番号	棟方角	規模（間）	桁行×梁行	桁行全長（m）	梁行全長（m）	梁間寸法（m）	南北	東西
S B02	東西	3×2	6.3	4.2	2.1等間	2.1等間	南18	
S B03	東西	4×2	8.4	3.0	2.1等間	1.5等間		海仕切有
S B04	東西	4×2	8.4	3.6	2.1等間	1.8等間		S B03より新しい
S B05	南北	3.13上×2	4.0以上	3.0	2.0等間	1.5等間		船柱建物
S B06	南北	1.13上×2	1.5以上	3.0	1.5等間	1.5等間		船柱建物
S B07	東西	4×1	8.4	2.4	2.1等間	2.4	北16	
S B08	東西	4×1	8.4	2.1	2.1等間	2.1	北15	S B07より新しい
S B09	東西	4×2	8.4	4.2	2.1等間	2.1等間		海仕切有

遺構番号	形態	平面規模（m）	深さ（m）	主な出土遺物	備考
S D01	不整形	長さ5以上、幅1.2～6.5以上	0.6～1.3	上器縹拂（時期不明）	遺構面下層より掘り込まれる
S D10	東西溝	長さ1以上、幅0.9～1	0.25	奈良～平安時代前半須恵器・土師器	推定六条大路南小路北側溝
S D11	東西溝	長さ5以上、幅2.6～2.8	0.7	奈良～平安時代前半須恵器・土師器	推定六条大路南小路南側溝
河川12	斜行	長さ38以上、幅6～9	1.4～1.8	跳生、奈良～室町時代の土器・陶器等	サルノコシカケ遺体出土



発掘区垂直写真 上が北



遺構平面図 1/600

昭和60年度に実施した東南隣接地の発掘区の調査所見とも併せて、前頁の遺構表にまとめた。

以下、検出遺構の概要について述べる。S D01は発掘区の西辺で検出した溝。遺構検出作業を実施した奈良～平安時代の遺構面の下約0.6m付近より掘り込まれており、層位の状況から、奈良時代以前の遺構と考えられる。

奈良～平安時代初期の遺構に関しては、東西棟掘立柱建物が5棟、南北棟掘立柱建物が3棟、それぞれ確認された。このうち、倉庫等に想定される総柱建物は2棟ある。このほか、発掘区北西部で検出したSD10・11は、遺構の位置や出土遺物等からみて、それぞれ六条大門南小路の北・南側溝に相当すると考えられる。SD10・11の位置は下記の通りである。

SD10溝心 (X = -148.010.6m Y = -18.1020m)

SD11溝心 (X = -148.017.7m Y = -18.1020m)

また、河川12は発掘区北東から西辺中央付近にかけて検出した。遺構の重複関係からみて、奈良～平安時代初期の掘立柱建物の柱穴より新しい。北東から南西方向へ流れていた模様。埋土の状況から、概ね2～3時期の河床の痕跡が確認され、埋土上層には16世紀の瓦質土器が含まれる。

出土遺物 遺物整理箱で13箱分が出土した。その内訳は、弥生土器片、古墳時代の円筒埴輪片、奈良～平安時代前半の須恵器片・土師器片・瓦片・墨書き器片（「木」5点、「東」1点）、圓面研片・線刻土器片・製埴土器片・龜片・土馬片・鎌倉時代の瓦器片、室町時代の瓦質土器片、時期不明の土製品（球状）・植物遺体（ドングリ・サルノコシカケ等）・石器（サスカイト剥片）、金属片（鉄）等がある。出土遺物の大半は、奈良～平安時代の土師器片・須恵器片である。

調査所見 奈良～平安時代前半の建物遺構については、遺構の重複状況等から、概ね3時期程度の変遷が確認できる。加えて、規模・構造的に同じか近似している建物を、同じ場所において建設している傾向が顕著に見受けられ、当坪内の土地利用に関する大きな特徴として指摘できる。

以上の点に着目するならば、当坪内では奈良～平安時代初期を通じて、敷地の区画割などに大きな変化が生じないような、比較的安定した土地利用が展開されていた可能性が高い。

本発掘区の實測図に併記する奈良大学発掘区（昭和60年度実施）の底図に記しておきたいのは、奈良大学文学部のご厚意により提供を受け、本報告中にて使用させて頂きました。ここに記して謝意を表します。

8. 平城京跡（左京六条二坊四坪）の調査 第519次

調査次数	HJ第519次	調査期間	平成16年8月26日～8月28日
工事内容	宅地造成	調査面積	59.5m ²
届出者名	有限会社シービーコーポレーション	調査担当者	三好美穂 宮崎正裕
調査地	奈良市八条五丁目418-1の一部		



発掘区位置図 1/6,000

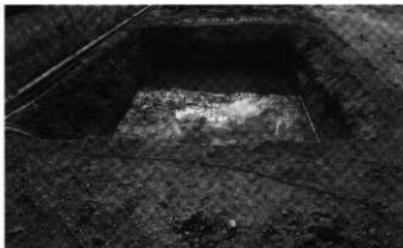
調査地は六条二坊四坪の北辺を占め、宅地造成に伴う事前調査として道路予定部分に一辺5mの発掘区を東西二か所に設定して行った。

基本層序 発掘区は造成土の下に耕土、床土とみられる灰色粘砂があり、現地表から約12mで橙茶色粘砂の地山（標高約55.1m）となる。西発掘区では造成土、耕土、床土の下に灰色砂が混じる灰色粘土（約0.2m）、淡青灰色粘土（約0.1m）の堆積があり、現地表から約1.2～1.35mで黄褐色粘土の地山（標高約55m）となる。

検出遺構 西発掘区では遺構は検出できなかったが、東発掘区では地山の上面で奈良時代の土坑との柱穴2個を検出した。SK01は平面楕円形（東西0.1m、南北0.2m）、深さ約0.2mのU字形に掘られた底に2cmの大孔が数かれ、8世紀後半の土師器軸Aが正位置に置かれていた。地鎮遺構かとも考えられるが性格は不明。柱穴は一辺約0.8m、深さは北側が約0.8mあるが、南側は約0.2mと浅い。南北に並び、柱間は2.1mを測る。

出土遺物 大半が東発掘区の灰色粘砂から出土したもので、弥生時代以降の砂岩製敲石片、8世紀の土師器片（杯、皿、椀、壺、甕）、須恵器片（杯、杯蓋、皿、壺、甕）、平瓦、丸瓦片などが少量ある。

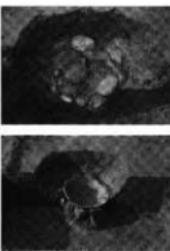
調査所見 今回の調査は、左京六条二坊四坪における初例であり、東発掘区で奈良時代の遺構面が良好に残っていることが確認できた。また、弥生時代と見られる遺物の出土等新たな見知を得ることができた。（三好美穂）



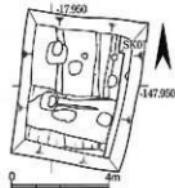
西発掘区全景（東から）



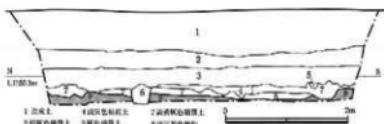
東発掘区全景（北から）



SK01 検出状態（西から）



東発掘区遺構平面図 1/200



東発掘区東壁土層図 1/125

9. 法華寺垣内古墳・平城京跡（左京一条三坊四・五坪）の調査 第520次

調査次数	HJ 第520次	調査期間	平成16年9月21日～12月9日
工事内容	宅地造成	調査面積	535m ²
届出者名	和光建設株式会社	調査担当者	池田裕英 武田和哉 久保邦江
調査地	奈良市法華寺町1241-1他		



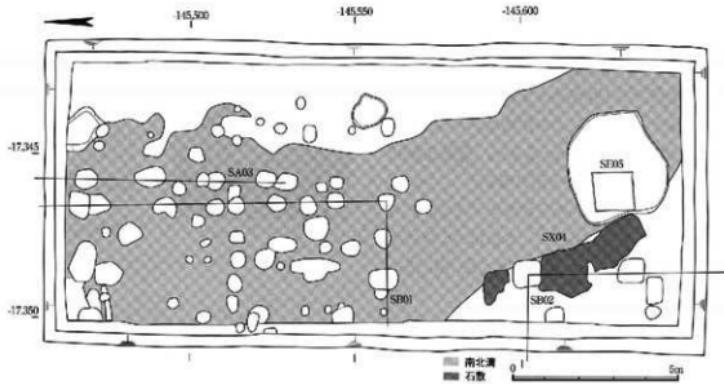
第1発掘区全景（北から）

本調査は平城京の条坊復原では左京一条三坊四・五坪にある。宅地造成に伴う事前の発掘調査で、道路や調整池になる部分に第1から第5までの5つの発掘区を設けて調査を実施した。結果的に平城京の遺構だけではなく、部分的にはあるが葺石と周濠を検出し、削平された古墳を見つけることは大きな成果であった。

基本層序 5つの発掘区の層序は各々異なるが、基本的にはいずれももとは水田で、造成土の下に黒灰色土(耕土)、灰白色砂質土(床土)、灰褐色土と続き、現地表下0.3～0.6mで茶黄色土の地山にいたる。遺構は概ねこの



第1発掘区 SX04・SE05（南から）



地山上面で検出した。地山上面の標高は64.9~65.2mで、西から東に下る旧地形であったことがわかる。

検出遺構 調査では、古墳時代から鎌倉時代までの遺構を検出している。以下でそれらについて概述する。

第1発掘区 挖立柱建物2棟(SB01・02)、掘立柱列(SA03)を検出した。柱間はSB01が南北2.1m等間、東西が2.4m、SB02は南北2.7mである。柱穴から平安時代前半の土器が出土したものもあり、後述する平安時代の井戸(SE05)と同時期の建物もあると思われる。柱穴を多段検出したが、組み合うものは少ない。SX04は幅約5m、長さ18m以上の南北溝と東西2.8m、南北約5mの範囲の石敷き遺構からなる。石敷き遺構は西から東へ緩やかに下る。東辺にやや大きめの石を用い、あとは小ぶりの石を用いる。後述する第4・第5発掘区の葺石とは傾斜角や石の大きさが異なることから、古墳の葺石を再利用し、置き直したものと思われる。石敷き上面や石と石との間から出土した土器から奈良~平安時代前半の遺構と考えられる。溝埋土の珪藻分析を行った結果、溝には常に水が溜まっていたわけではなく、部分的あるいは時期によって水が流れたり、漏水する状況であったようである。古墳の葺石や周濠を利用した遺構と思われるが、性格は不明である。SE05は平安時代の井戸である。井戸枠は横板組みで、一辺1.1m四方、深さ2.4mである。枠材の一部に断面が凸形をした材があり、屋根材が転用されているようである¹⁾。掘形から9世紀の、枠内から10世紀の遺物が出土した。石の置き方から一時期SX04と併存していたと考えられる。

第2発掘区 素掘り溝や土坑を検出したのみで、顕著な遺構はなかった。

第3発掘区 発掘区中央部で西から東へ下る葺石を検出した。葺石はかなり乱れており、人為的に崩されたものと思われる。葺石の下で黒色腐植土を積んだ単位がわかる層がみられた(写真)。古墳墳丘を盛った際の作業単位を示しているものと思われる。この層は発掘区外東へ続くことから古墳の東側に造り出しがあると想定される。

第4発掘区 SE06は上・中・下と3段組の構造の井戸である。上段は石組みで、中・下段が横板組である。石組みは内法0.9m四方で3段(深さ0.4m)積まれてい

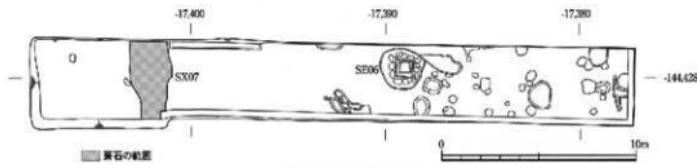
た。中段の横板は一辺0.75m四方で、横板が3段(深さ0.7m)積まれ、下段の横板は一辺が0.6m四方で二段(深さ0.5m)積まれていた。深さは1.6mである。枠内から瓦器が出土しており、鎌倉時代頃の井戸と思われる。SX07は東から西に下る南北方向の葺石で、古墳の墳丘斜面と考えられる。南北3.8m分、東西2.3mを検出した。西端の石が大きめで、基底石と考えられる。石材には三笠山安山岩、チャート、珪岩が多く使われ、石は佐保川で採取したようである²⁾。葺石上面や周濠から円筒埴輪や家・盾・蓋形などの形象埴輪が出土した。葺石の西端部が南北方向に直線的であり、第3発掘区で検出した葺石とは延長線上にあることから、検出した葺石は西側の造り出し部にあたると想われる。

第5発掘区 発掘区北部で北から南へ下る東西方向の葺石を検出した。墳丘南端部にあたる。東西2m、南北1m分を検出した。南端部に大きな石が配されており、基底石と考えられる。上部の葺石は削平されており、東壁断面では基底石よりさらに南まで葺石がみられた。

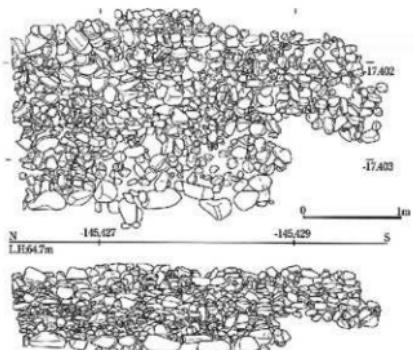
出土遺物 遺物整理箱で130箱分出土した。各発掘区から埴輪(川西編年第Ⅲ期)、奈良~平安時代・鎌倉時代の土器・土製品・瓦の破片が出土したが、その多くは第1発掘区からで、遺構に伴う遺物としてはSX04、SE05出土のものが大半を占める。SX04からは、奈良~平安時代前半の土師器、須恵器、縫釉陶器、灰釉陶器、軒平瓦(6671K・6721C・五重弧紋軒平瓦・重弧紋軒平瓦)の他、輪の羽口や堆塗といった鋳造に関わる遺物



第3発掘区南壁(北から)



第4発掘区遺構平面図 1/250



第4発掘区葺石 SX07 平面・立面図 1/50

もある。重弧紋軒平瓦には額部に、接合する際にさしたと考えられる粘土釘の痕跡がみられ、興味深い資料である。S E05の枠内からは奈良～平安時代前半の土師器、須恵器、灰釉陶器、軒丸瓦(6132A・6138B・複弁6弁蓮華紋軒平瓦(姫寺廃寺同范)、軒平瓦(6767A)の他、S X04と同じく鋳造関係の遺物がある。

調査所見 調査の結果、第1、第3、第4、第5発掘区で石敷きもしくは石積みを検出し、これらの形状や各発掘区から埴輪が出土していること等から考えると、これらの石敷き・石積みは古墳の葺石(もしくはそれを再利用したもの)であると判断された。古墳の上部は削平されたと考えられる。古墳の形状は後円部を北にした南北方向を主軸とする、東西に造り出しがある前方後円墳であろう。削平された時期を示す遺構や遺物はないが、調査地周辺では木取山(きどりやま)古墳や平塚1・2号墳など平城京造営の際に削平されたと考えられる古墳も見つかっており、この古墳も当該地を平城京の宅地とする際に削平されたと考えるのが妥当であろう。字名から法華寺垣内(ほけじかいと)古墳と仮称する。

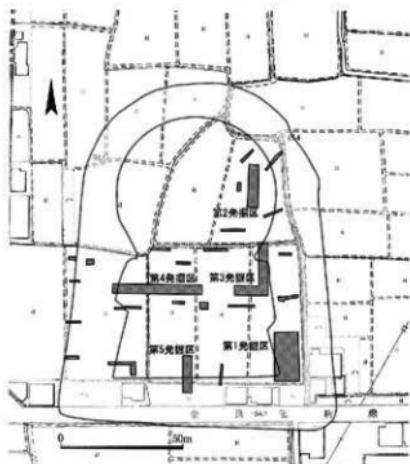
古墳の葺石は部分的にしか検出していないが、調査後の工事立会の成果等を勘案すると、墳丘全長が107m程の前方後円墳に復原できる。出土した埴輪からみて5世紀前半頃(古墳時代中期前半)の古墳と考えられる。ちなみに、以前に調査地周辺で採取され現在横浜市三溪園に保存されている長形石棺があり、平塚古墳のものである可能性が指摘されていたが³⁾、本調査の結果から当古墳の時期とも矛盾せず、当古墳の石棺である可能性も考えられるようになったと思われる。(池田裕英)



第4発掘区葺石 SX07 (西から)



第5発掘区全景 (南から)



法華寺垣内古墳墳丘復原図 1/2,000

- 1) 奈良文化財研究所稻崎和久氏からご教示をいただいた。
- 2) 山城郷土資料館橋本清一氏からご教示をいただいた。
- 3) 奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告書』VI 1975

10. 平城京跡（右京一条二坊三坪）の調査 第521次

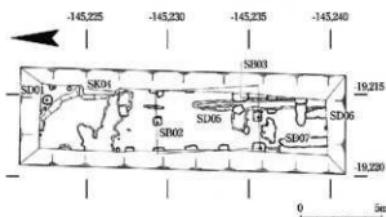
調査次数	H J 第521次	調査期間	平成16年10月15日～11月1日
工事内容	店舗付マンション新築	調査面積	120m ²
届出者名	個人	調査担当者	久保邦江
調査地	奈良市二条町60-1		



発掘区位置図 1/6,000



発掘区全景（南から）



遺構平面図 1/300

調査地は平城京の条坊復原では右京一条二坊三坪の北端の西寄りに位置し、敷地北端には一条条間路南側溝が想定される箇所である。しかし、敷地北端付近は工事による破壊が及ばないことから、今回の調査では三坪内の遺構の状況を確認することとした。

基本層序 基本的な層序は造成土（1.0m）、暗灰色粘土の水田耕土（0.2m）、灰色砂質粘土・灰色粘土砂混・灰色砂質土の床土（0.1m）、灰色粘土褐色粘土ブロック混じり（0.1m）と続き、現地表面から1.3～1.4mで黄褐色粘土の地山にいたる。遺構検出は黄褐色粘土上面でおこなった。遺構検出面の標高は70.5mであった。

検出遺構 検出した遺構は奈良時代以前の溝1条、奈良時代の掘立柱建物2棟・土坑1基・溝などである。

S D01は発掘区北東隅で検出した素掘りの溝である。南肩のみを検出し、全幅は不明である。検出面からの深さは0.4m。出土遺物がなく時期は不明であるが、奈良時代の土坑 S K04より古い。S B02は発掘区中央部で検出した奈良時代の南北棟掘立柱建物である。柱間は桁行3間（2.1m等間）、梁行2間（1.8m等間）である。柱掘形からは8世紀の須恵器片・土師器片が少量出土した。S B03は発掘区南東隅で検出した奈良時代の柱列である。柱間は2間以上（2.4m等間）である。柱掘形は比較的大きく、塙よりも建物になる可能性が高いと考える。柱掘形から、8世紀の須恵器片・土師器片が出土した。S K04は発掘区北東部で検出した奈良時代の土

坑である。西端部のみを確認し、発掘区外東に続く。南北3.0m、東西1.0m分を確認した。深さは検出面から1.0mまで確認できたが底までには至らなかった。埋土からは8世紀の須恵器片・土師器片・丸瓦片・平瓦片が出土した。S D05～07は発掘区南半で検出した素掘りの溝である。溝幅は、0.5～0.8m、深さは0.05～0.1mである。埋土から8世紀の須恵器片・土師器片が少量出土した。

出土遺物 出土遺物は非常に少なく、遺物整理箱1箱に満たない量であった。8世紀の須恵器片・土師器片がほとんどで、少量の丸瓦片・平瓦片がある。

調査所見 検出した柱穴は掘形が一辺1.0m前後あるにも関わらず、検出面からの深さは0.1～0.2mと非常に浅く、調査地は本来遺構が掘削された面から、かなり削平をうけていることが判明した。S B02とS B03の重複関係から前後関係は不明であるが、宅地の時期変遷は2時期以上あると考えられる。

11. 平城京跡（左京四条三坊十五坪）の調査 第522次

調査次数 HJ 第522次

工事内容 共同住宅新築

届出者名 個人

調査地 奈良市三条添川町203-4他

調査期間 平成16年11月22日～12月7日

調査面積 120m²

調査担当者 久保邦江



発掘区位置図 1/6,000

調査地は平城京の条坊復原では左京四条三坊十五坪の北東部に位置し、四条条間北小路のやや南に位置する。

基本層序 造成土（0.8m）、暗灰色粘土の耕土（0.2m）、灰色砂質粘土の床土（0.15m）、灰色砂質粘土（0.1m）、淡緑灰色粘土（0.05m）灰色砂質粘土（0.1m）と続き、現地表面から約1.3mで黄褐色粘土の地山にいたる。一部では奈良時代の遺物を含む灰色砂質粘土の整地土が広がる。遺構検出は黄褐色粘土上面もしくは整地土上面で行った。遺構検出面の標高は61.6mである。

検出遺構 奈良時代の掘立柱建物1棟、掘立柱塀1条、土坑1基、平安時代の溝1条、時期不明の溝1条がある。

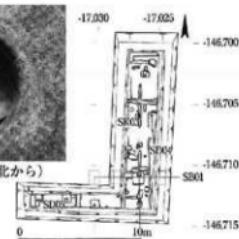
S B01は発掘区南部で検出した。柱穴2箇所、東壁で確認した柱穴の位置関係を考慮すると東西方向3間以上（18m等間）、南北方向は1間以上（2.4m）になる。柱掘形は比較的大きく一辺1m以上あるものがある。柱穴は整地層上面から掘り込む。柱穴から8世紀の須恵器片・土師器片・丸瓦片・平瓦片が出土した。S A02は3間分を検出した南北方向の掘立柱塀である。柱間は2.4m等間である。柱穴から8世紀の須恵器片・土師器片が出土した。S B01よりも新しい。S K03は発掘区中央部北寄りで検出した土器理納土坑である。平面は東西0.3m南北0.28mの不整円形で、検出面からの深さは0.13mである。坑内には東西南北の方位にあわせ、墨10点を正位置で重ねている。地鎮に関わる遺構と見られる。S D04は発掘区東辺で検出した南北方向の溝である。幅約0.5



発掘区全景（東南から）



SK03 土器出土状態（北から）



遺構平面図（1/400）

m、検出面からの深さは0.1m。溝内から9世紀前半の須恵器片・土師器片が出土。S D05は発掘区南西隅部で検出した南北方向の溝である。幅は3.8m以上、検出面からの深さ0.3m以上。出土遺物がなく時期は不明。

出土遺物 遺物整理箱9箱分出土した。8世紀の須恵器片・土師器片がほとんどで少量の丸瓦片・平瓦片がある。S D04から9世紀前半の須恵器片・土師器片が少量出土した。S K03出土の皿10点は土師器の手法で製作され、須恵質に焼成されており、他に例をみない。椀に似ており、径は11.4～12.1cm、高さ3.0～3.4cmである。8世紀のものと考えられるが詳細な時期は不明である。

調査所見 今回、奈良時代の遺構の他に平安時代の溝S D04を検出したことが大きな成果である。周辺での市H J第290次調査、市H J第411次調査、県2004年度調査で同時期の遺構を確認しており、S D04は平安京への遷都以降の土地利用を考える手がかりになる遺構である。

12. 平城京跡（左京六条東一坊大路）の調査 第523次

調査次数	HJ第523次	調査期間	平成16年12月20日～12月21日
工事内容	宅地造成	調査面積	72m ²
届出者名	有限会社ウエムラ	調査担当者	三好美穂
調査地	奈良市八条五丁目437-12他		

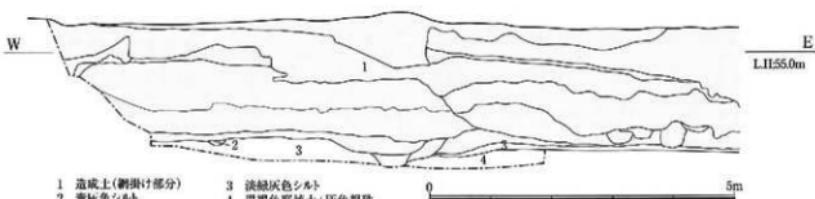


宅地造成（4,620m²）に伴う調査で、調査対象地は平城京東一坊大路の遺存地割の中に収まる。敷地南端では東一坊大路の東西幅を確認するために奈良文化財研究所の調査（国第251次調査：平成6年度）が過去に実施されているが、沼状堆積により明確な条坊造構は確認されていない。南方の七条一坊十五・十六坪の調査（国第252・253次調査：平成6年度）では東一坊大路の遺構が確認されている。調査は敷地北端の道路予定地に東西20m、南北3.6mの発掘区を設定して実施した。

基本層序 調査地は国第251次調査以後に造成され、現地表から1.9～2.0mまでが造成土、一部に造成時の擾乱が深く及ぶ所もある。その下は淡灰色シルト層、黒褐色腐植土を含む灰色粗砂層となる。現地表から約2.5m掘り下げたところ、淡灰色シルト層からの湧水が著しく、崩壊の危険性が生じたため以下の掘り下げを断念した。

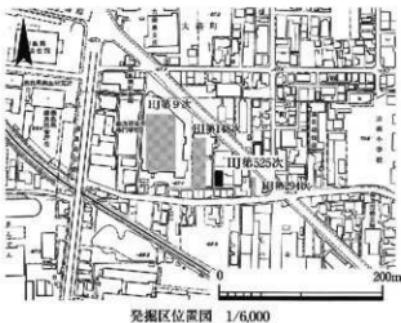
出土遺物 損乱層内から現代の磁器片、ガラス片とともに8世紀の須恵器片が少量出土した他、下層の黒褐色腐植土を含む灰色粗砂層から8世紀末～9世紀初頭の上部器片（杯、皿、碗、壺）・黒色土器A類杯片・須恵器片（杯、杯蓋、高杯、壺）が出土した。

調査所見 土層の堆積状況から国第251次調査で確認された沼状堆積は今回の発掘区には及んでいないことが判明した。国第252・253次調査で確認された東一坊大路路面の標高が約54.2～54.4mであり、東一坊大路の遺構が遺存するならば、標高53.3mまで掘り下げた今回の調査でも検出されるはずである。東一坊大路西側溝の溝底勾配が六条七条付近で緩くなるといったこれまでの知見と今回確認した灰色粗砂層の広がりから、奈良時代末頃には東一坊大路西側溝が制御されず調査地付近では路面側に大きく広がる流路となっていたとも考えられる。



13. 平城京跡（左京五条五坊十坪）の調査 第525次

調査次数	II J 第525次	調査期間	平成17年1月26日～3月2日
工事内容	東消防署建設事業	調査面積	200m ²
通知者名	奈良市長	調査担当者	鎌方正樹
調査地	奈良市西木辻町43番地の1		



基本層序 造成土（厚さ0.6m）の下に水田耕土・淡灰色土・灰褐色土と続き、黄褐色シルトの地山となる。地山の標高は67.4～67.7mで、低くなる北西部には厚さ0.25m前後の整地上（奈良時代の遺物包含）がある。遺構は整地上及び地山の上面で検出した。

検出遺構 古墳時代中期の溝2条、奈良時代の掘立柱建物9棟・井戸1基がある。その概要は下の一覧表にまとめた。重複関係のある建物の構築順序はS B04→S B03、S B05→S B07→S B06・08である。

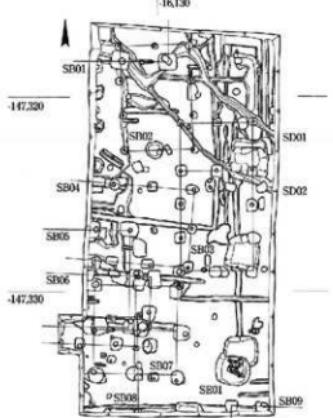
出土遺物 古墳時代中期の土師器・須恵器（T K208～T K47型式）、奈良時代の土師器・須恵器・瓦がある。

調査所見 S B06とS B08は空間的に重複するので、建物は4回以上建替えられている。S E01内にシイ属の木葉が多量に堆積し、その付近に樹木の植栽があった。S D01は市H J第148次調査SD18と一連の遺構だろう。

検出遺構一覧表

遺構番号	棟方向	面積（間） 幅行×奥行	幅行全長 (m)	奥行全長 (m)	柱間寸法（m） 幅行 奥行	間の出 (m)	備考
S B01	南北	3×2	5.4	3.6	1.8等間	2.4	柱方向・規格に不明。柱穴深さ0.5～0.7m
S B02	南北	3×2	5.4	3.6	1.8等間		柱穴深さ0.3m前後
S B03	南北	3×2	5.4	3.6	1.8等間		柱穴深さ身高0.4m、幅0.3m
S B04	東西	2以上×2	4.03±上	4.0	1.9±2.1	2.0等間	柱穴深さ0.4～0.5m
S B05	東西	2以上×2	3.63±上	4.8	1.8等間	2.4等間	柱穴深さ0.5～0.7m、柱根直徑0.23m
S B06	東西	2以上×2	3.63±上	3.6	1.8等間		柱穴深さ0.3m前後
S B07	南北	2×2	4.6	4.2	2.4±2.2	2.1等間	柱穴深さ0.3～0.5m
S B08	南北	3×2	4.8	3.0	1.5±1.8	1.5等間	柱穴深さ0.2m前後
S B09						2.4	柱方向・規格に不明。柱穴深さ0.5～0.7m

遺構番号	掘形			井戸枠	主な出土遺物	備考
	平面形	平面規模（m）	深さ（m）			
S E01	隅丸方形	南北1.5×東西1.77	2.55	万形覆板組構造前め	0.93×0.93	奈良時代の土師器・須恵器・木葉
S D01	斜行溝	長さ1.35以上×幅0.2～0.4	0.1～0.4			古墳時代中期の土師器・須恵器
S D02	斜行溝	長さ1.2以上×幅0.1～0.25	0.2前後			古墳時代中期の土師器・須恵器
						S D01と接続する



14. 平城京跡（左京六条三坊十二坪）の調査 第526次

調査次数	H J 第526次	調査期間	平成17年2月7日～2月15日
工事内容	宅地造成	調査面積	80m ²
届出者名	株式会社ファーストホーム	調査担当者	宮崎正裕
調査地	奈良市大安寺二丁目45他		



発掘区位置図 1/6,000



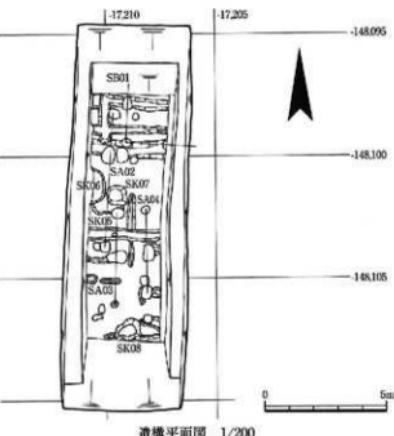
発掘区全景（北から）

基本層序 造成土、耕土と続き、現地表下約1.6mで、黃橙色砂質土あるいは暗茶灰色砂・粗砂の地山に達する。遺物包含層はほとんど遺存しない。地山の標高は概ね56.6mで、遺構はすべて地山上面で検出した。

検出遺構 奈良・平安時代の掘立柱建物1棟、掘立柱列3条、土坑4基がある。S A02～04は建物の一部で、SK06・07は井戸の可能性がある。

出土遺物 遺物整理箱で4箱分出土した。内訳は土器3箱、瓦1箱で、その他に埴輪1点、砾石2点、輪羽口1点が出土している。また、判読できないが、墨書き土器（須恵器杯か皿）が1点、製塙土器の細片が少量、軒丸瓦6291型式 Aa種が1点ある。

調査所見 調査地は平城京左京六条三坊十二坪の中央やや南西寄りに位置し、北東には十二坪中央を流れていた東堀河の遺存地割が残る。東堀河に関わる遺構は当発掘区には及んでいないことを確認した。



遺構平面図 1/200

検出遺構一覧表

遺構番号	横方向	規模（間） 桁行×梁行	桁行全長 (m)	梁行全長 (m)	柱間寸法 (m) 梁行	備考
S B01	不明	1×1	1.8	1.8	1.8 梁行	建物の南北奥部分、柱穴から製塙土器が出土
S A02	南北	3以上	5.4		1.8等間	S K05よりも古い
S A03	南北	2以上	3.6		1.8等間	S K05よりも新しい。柱穴から黒色土器A類が出土
S A04	南北	2	3.6		1.8等間	柱穴から奈良時代土器器・瓶器、製塙土器、丸瓦が出土

遺構番号	掘形			主な出土遺物	備考
	平面形	平面規模 (m)	深さ (m)		
S K05	楕丸方形	南北0.9×東西1.2	0.2	奈良時代土器器・瓶器	S A03、S K06・07よりも古い
S K06	楕丸方形	南北1.4×東西0.6以上	0.4以上		S K05よりも新しい
S K07	楕丸方形	南北0.8×東西0.8	0.8以上	埴輪、奈良時代土器器・瓶器、製塙土器	S K05よりも新しい
S K08	小空形	南北1.1以上×東西2.6以上	0.1～0.25	奈良時代土器器・瓶器、黑色土器A類	

15. 平城京跡（右京七条西二坊大路）の調査 第527次

調査次数 HJ第527次
 工事内容 道路新設工事（西ノ京六条線）
 通知者名 奈良市長
 調査地 奈良市六条一丁目453-1の一部

調査期間 平成17年2月14日～2月23日
 調査面積 20m²
 調査担当者 秋山成人



発掘区位置図 1/6,000



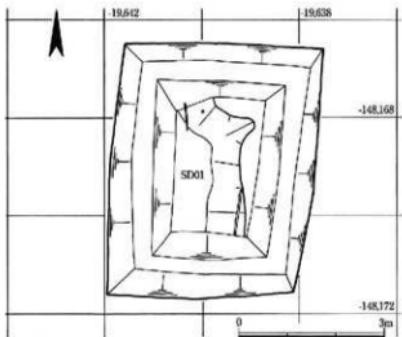
発掘区全景（北から）

基本層序 層序は、上から黒灰色土（耕土）、赤灰色土（底土）、淡灰色砂、暗青灰色砂質土、淡黄褐色砂質土、黄褐色粗砂、灰色粘砂、暗灰色粘砂（旧耕土）、暗灰色粘土、暗灰色粘質土、灰褐色砂質土と続き地表下1.7mで黒色・灰色粘土の地山に至る。地山面の標高は、58.4mである。堆積土No.13～17からは、13世紀の瓦器楕片・土器皿片が出土。堆積土No.3～12からは、12世紀の白磁楕片、12・13世紀の瓦器楕片、江戸時代（18世紀）の瓦質深鉢片・炮烙片が出土した。

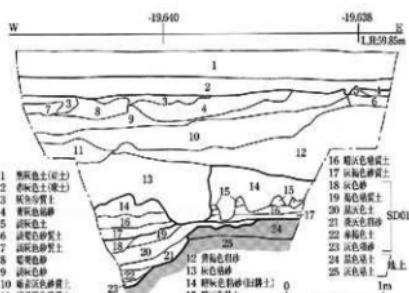
検出遺構 S D01は、地山上面で検出した南北溝で、東肩のみを確認し、長さ3.3m、幅1.6m、深さ0.5m分を検出した。埋土は、上から灰色砂、褐色粘質土、黒灰色土、淡灰色粗砂、赤褐色土、灰色粗砂の順に堆積する。灰色粗砂から奈良・平安時代（8・9世紀）の土器皿・須恵器杯・軒丸瓦（6307型式C種）・軒平瓦（型式不明）・丸瓦・平瓦、平安時代（9世紀）の黒色土器楕・鎌倉時代（13世紀）の瓦器楕が出土した。

出土遺物 奈良時代から鎌倉時代の土器類、瓦類の他、溝S D01から塑像が3片出土した。瓦の出土量は、薬師寺境接地であるためか土器類に比べて多く、塑像片も薬師寺にかかるものとみられる。

調査所見 調査地は、平城京三条坊復原によると、西二坊大路西側溝にあたり、S D01は、13世紀までに埋まっていたり、その位置から西二坊大路西側溝かそれを踏襲する溝の可能性がある。



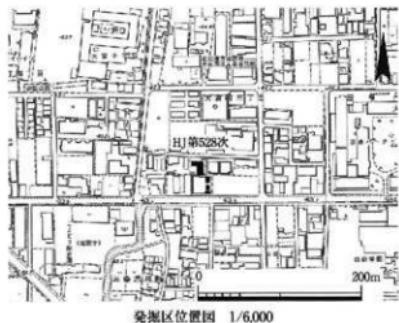
遺構平面図 1/100



発掘区北壁土層図 1/50

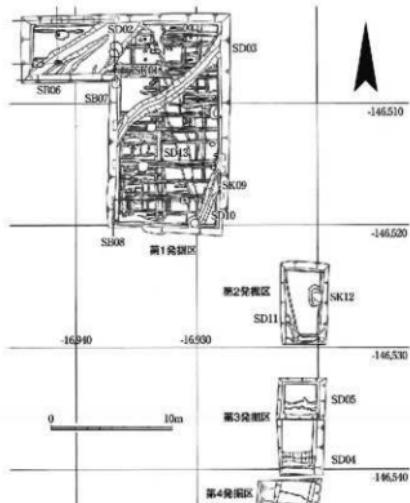
16. 平城京跡（左京三条四坊四坪）の調査 第528次

調査次数	H J 第528次	調査期間	平成17年2月14日～3月31日
工事内容	マンション新築	調査面積	273m ²
届出者名	大和システム株式会社	調査担当者	久保邦江 武田和哉
調査地	奈良市大宮町三丁目192番2他		



調査地は奈良時代の条坊復原では、左京三条四坊四坪の南端中央部に位置する。敷地の南端は三条大路北側溝が想定される箇所である。

基本層序 上から造成土（0.7m）、暗灰色粘質土の耕土（0.14m）、灰褐色砂質粘土の床土（0.1m）、淡黄灰色粘土（0.3m）、灰褐色砂質粘土・橙褐色土混（0.14m）、灰褐色砂質粘土・黄褐色土混（0.14m）と続き、地表面から約1.5m黄褐色粘質土層にいたる。遺構検出は、黄



検出遺構一覧表

遺構番号	縦方向	規模(例)	桁行全長	梁行全長	柱間寸法(m)	備考
		桁行×梁行	(m)	(m)	桁行	
S B06	南北?	2以上×2以上	2.4以上	1.5以上	2.4	1.5 東南角柱穴方形の板を鏡板として使用。柱抜き取り痕跡から8世紀の軒丸瓦・軒平瓦出土
S B07	東西	3以上×2	7.2以上	5.4	2.4	2.7 8世紀の上御器片・須恵器片出土
S B08	東西	4以上×3以上	6.0	1.8	2.1-2.1-1.8	1.8 8世紀の上御器片・須恵器片出土
遺構番号	縦形	主な出土遺物				備考
		平面形	平面規模(m)	深さ(m)		
SK01	円形	直径0.6	0.3			断面逆台形。一部袋状。弥生時代以前
SD02	斜行溝	幅4.0	0.7			北東から南西に斜行する
SD03	斜行溝	幅1.2	0.6			北東から南西に斜行する。遺構の重複関係から、奈良時代の柱穴より古い。
SD04	東西溝	幅2.75(土層で確認)	0.37	和同開示、8世紀の須恵器片・上御器片・平瓦片・丸瓦片		三条大路北側溝 最深部標高：X=-146539.380 Y=-16.920.000
SD05	東西溝	幅0.9	0.15	8世紀平瓦片		SD04と梢芯距離約5.0m。
SK09	形不明	東西2.2	1	8世紀須恵器片・上御器片		SD10より古い
SD10	斜行溝	幅0.85	0.42	8世紀須恵器・上御器		北東から南西に斜行する
SD11	斜行溝	幅0.5	0.2	時期不明上御器片小片		耕作歴か？北北西から南南東に斜行する
SK12	不整円	南北0.75	0.2			土層から室町時代以降と考えられる
SK13	東西1.1					
SD13	斜行溝	幅0.4～1.4	0.1			北北西から南南東に斜行する。土層から室町時代以降と考えられる。



第1発掘区（北から）



第1発掘区下層調査区（東から）



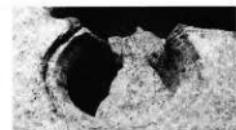
第2発掘区全景（南から）



第3発掘区（東から）



第4発掘区全景（西から）



土坑SK01（北から）

褐色粘質土層の上面（上層）でおこなった。さらに第1発掘区北端部では下層の黄褐色砂質粘土もしくは黄褐色粘土・茶褐色粘土層上面でも遺構検出をおこなった。

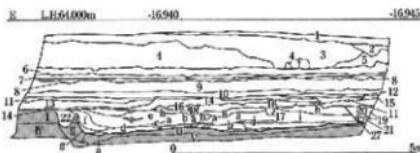
検出遺構面の標高は第1発掘区北西隅部で下層が62.0m、上層が62.2m、（以下上層）北東隅部62.3m。第2発掘区は62.3m。第3・4発掘区で61.7m。第2・3発掘区の間で約0.6mの高低差がある。

検出遺構 下層では弥生時代以前の土坑SK01、上層では弥生時代後期～古墳時代前期初頭の溝S D02、奈良時代以前の溝S D03、奈良時代の溝S D04・05・10・掘建柱建物S B06～08・土坑SK09、室町時代の耕作溝・土坑SK12、室町時代以降の溝S D13がある。

出土遺物 遺物整理箱13箱分あり、主なものは表に示した。その他に耕作溝や、遺物包含層から縁軸陶器片・灰釉陶器片・製塩土器片などが出土している。

調査所見 今回の調査では、第3発掘区南端部で東西方向の溝S D04を検出した。第3発掘区で溝の北肩部を確認し、第4発掘区の土層断面で南肩を確認することができた。上部は後世に破壊されており、確認できた溝幅は2.75m、検出面からの深さは0.37mである。溝底から和同開称1点が出土した。最深部の座標については、表に示したとおりである。位置的に三条大路北側溝と考えられる。S D04と溝間約5mをへだてた北側で東西方向の溝S D05を検出した。四坪南辺を画する溝とみられる。下層で検出した土坑SK01は埋土から遺物が出土しなかったため、時期は不明である。層位的には弥生時代後期よりは古く、断面形が一部で袋状になっている点などを考慮すると、約500m東方の油坂遺跡で確認されているような绳文時代の低湿地型の貯藏穴である可能性も考えられる。

(久保邦江)

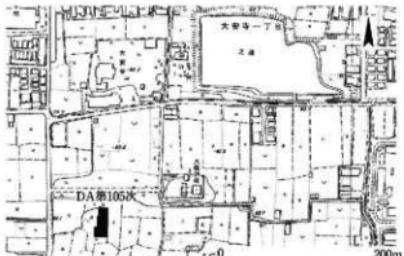


第1発掘区南壁上層図 1/100

1	赤褐色土	14	灰褐色土
2	赤褐色土	15	小豆色土・小標
3	赤褐色土	16	黄褐色砂質土・茶褐色粘土
4	赤褐色土	17	米白色土
5	赤褐色土	18	小豆色・米白色土
6	赤褐色砂質土（耕土）	19	小豆色砂質土・黃褐色粘土
7	赤褐色砂質土	20	小豆色砂質土・黃褐色粘土
8	赤褐色砂質土	21	小豆色砂質土・灰褐色土
9	赤褐色土	22	黄褐色砂質土
10	灰褐色砂質土	23	灰褐色砂質土
11	灰褐色砂質土・小標	24	灰褐色土
12	灰褐色土	25	灰褐色砂質土
13	灰褐色砂質土・黃褐色土	26	灰褐色土
c	灰褐色砂質土	V	黄褐色砂質土・黃褐色土

17. 史跡大安寺旧境内（西塔跡）の調査 第105次

調査次数	DA第105次	調査期間	平成16年6月28日～12月24日
工事内容	史跡大安寺旧境内保存整備事業	調査面積	500m ²
申請者名	奈良市長	調査担当者	松浦五輪美
調査地	奈良市東九条町1340他		



発掘区位置図 1/6,000

基本層序 基壇上面はこれまでと同様に0.15m前後の腐植土と基壇版築の風化土が堆積している。

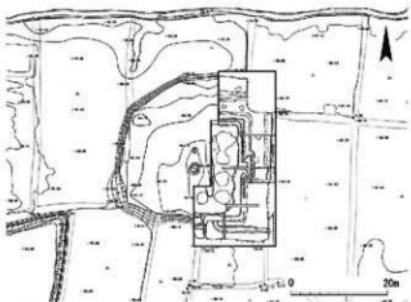
基壇周囲もこれまでに確認した層序と基本的に同様である。地表下約0.5mまでは中～近世の開削時の土層で、以下、瓦を大量に含む焼土層が最大厚0.3m、黄灰色砂質土が0.15m前後、瓦を大量に含む黄色粘質土が0.2m前後堆積し、基壇の基礎面に達する。やはり2層の瓦堆積層が確認でき、下層の黄灰色砂質土と黄色粘質土は最初に崩落した瓦を処理しつつ整地した層と判断される。

検出遺構 基壇外装は、東階段を含め、一部を除き延石しか残存しておらず、基壇南東角付近は延石さえほとんど残っていない。東階段北側の一部には地覆石が良好に残っており、東石を立てる納穴も確認できる。

基壇規模は、延石外線間で一辺約21m、階段は踏み面の幅が約4.2m、出が約1.5mであり、これまでの推定値を追認した。



発掘区全景（北東から）



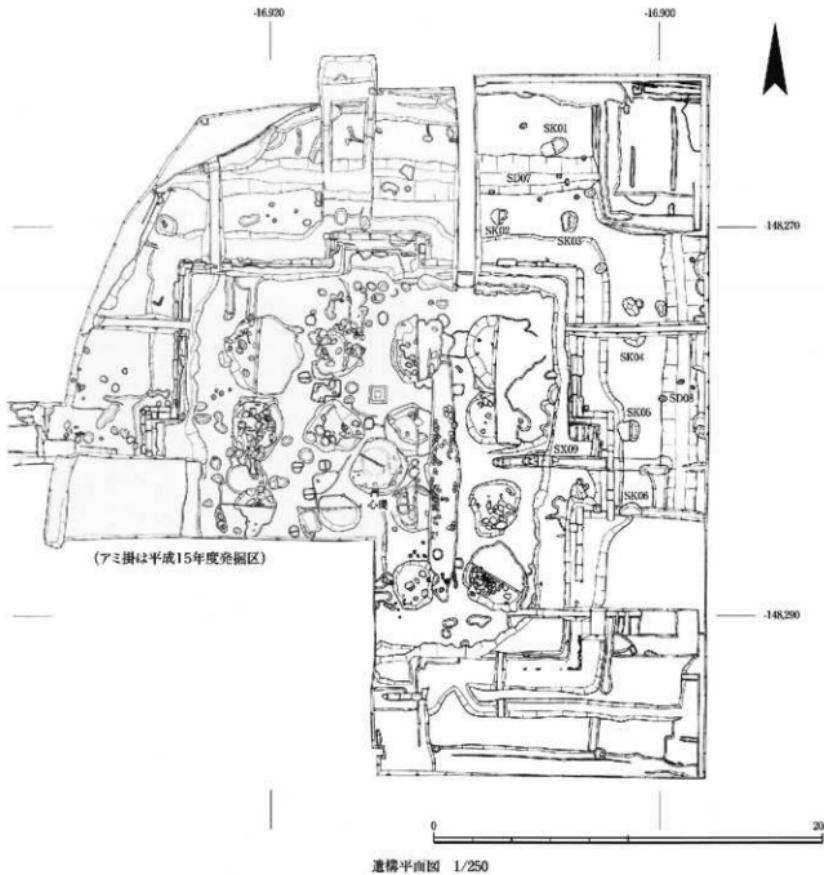
発掘区位置図 1/1,000

基壇上面では、塔東側柱列の礎石抜取痕跡を検出し、柱間が3.9～4.2～3.9mであることも追認した。

この他、土坑6、溝2、溝状土坑1がある。土坑SK 01～06は直径1m前後の平面円形状で、深さは0.2m～0.8



発掘区北部西壁土解図 1/50



遺構平面図 1/250

mとバラつきがある。埋土は黄色粘質土の整地土と同質であり、瓦も多量に含む。SK01を除く5つは基壇を囲むように配置しており、柱の抜取痕跡の可能性が高い。

溝SD07・08は幅2m前後、深さ0.1~0.15mの浅い堆み状で、塔を囲む一連の遺構と考えられる。

溝状土坑SX09は東階段中央を基壇上から基壇外にかけて断ち割るかのような、長さ約9m、幅約0.6m、最深2.3mの狹長な土坑状遺構である。基壇外装以前に掘られ埋め戻されたものであり、基壇底面を突き抜け、湧水層に達している。今のところ目的については不明である。底部近くで柄杓の柄が出土した。

出土遺物 整理箱で瓦類3105箱、土器類5箱、木製品3箱、金属製品3箱、石器1箱が出土した。特別なものとして、風鈴片3点（口絵3）、露盤片1点がある。

露盤片は最も長53×30cm、厚さ約2cmの長方形の銅板で、重さが約24kgもある重厚なものである。軒瓦についてはこれまでと同様、軒丸瓦は6138型式C b種と7251型式A種、軒平瓦は6712型式A・B種が大半を占める。

調査所見 今回の調査で、基壇および塔の規模については前回までの調査結果を補足・追認することができた。

新たに検出した土坑や溝は、基壇を囲むように位置しており、何らかの開発施設に関わる可能性がある。南西部にも同様の遺構が存在する可能性があり、遺構配置の全体像を見たうえで改めて検討したい。

また、今回の調査でも塔の被災が二度あったことが確認された。それぞれの時期については未だ不確定であるが、土器からは両者とも10世紀前半以降の出来事と判断される。

18. 史跡大安寺旧境内（西面・南面築地壝推定地）の調査 第106次

調査次数	DA第106次	調査期間	平成16年6月28日～7月30日
工事内容	遺跡範囲確認	調査面積	102m ²
申請者名	奈良市教育委員会教育長	調査担当者	池田裕英
調査地	奈良市大安寺町1320他		



発掘区位置図 1/6,000



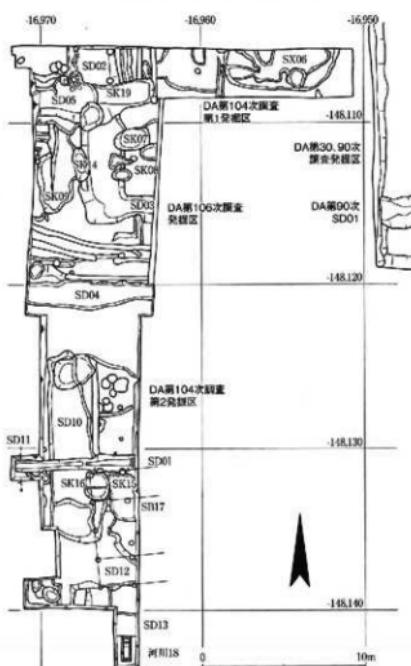
DA第106次調査 発掘区全景（北東から）

今回の調査は、平成15年度のDA第104次調査に引き続き、大安寺の西面築地壝と南面築地壝の確認を目的としており、DA第104次調査区と合わせて報告する。

基本層序 発掘区内の基本層序は、後述する南面築地壝推定地で大きく異なる。この北側は、厚さ約0.2mの耕土直下で地山の暗黄茶色砂質土となり、南側では上から水田耕土、淡灰色砂質土、淡灰褐色砂質土、暗茶褐色土と続き、地表下約0.5mで暗黄茶色砂質土または茶灰色砂質土の地山となる。地山上面の標高は北側で約59.4m、南側で約58.9mである。

検出遺構 六条大路北側溝と考えられる溝、大安寺の西面築地壝と南面築地壝の雨落溝と考えられる溝、土坑、掘立柱建物、河川を検出し、詳細は一覧表に記した。以下築地壝関連造構について記す。

S D03は、幅約1.7mの東西方向の溝で、発掘区内で北に直角に曲がりSD02となる。SD03の東延長線上にはDA第30・90次調査のSD01があり、これらは同一の溝と考えられる。またSD03の南約3.5mには、平行する溝SD04がある。両溝の心々間の国土座標はおよそX = -148,117.86mで、南大門南北北心X = -148,117.64mとほぼ一致する。SD02はさらに発掘区北側に継ぎ、国土座標のX = -148,111mの北側辺りで西に向かう溝SD05が分かれれる。このSD05以北のSD02の西岸には、護岸の石列が1段分あり、長さ約1.5m分を確認した。この石列の裏込土からは、9世紀中頃の



造構平面図 1/300